- 例言 1 『看聞御記』(『続群書類従 補遺二』)と前掲「全文テキストデータベース」との照合作業は主に輪読する形で行われたが、本表はその 副産物である。
 - 2 本表は応永23年(1416)正月から同25年(1418)末までの3年間 を対象としており、この間に伏見宮貞成が日次に記した記事857日 分の記事要旨を一覧表にしたものである。
 - 3 日ごとの記事には当然ながら内容に厚薄がある。したがってその記事 事項の摘出基準も一定ではない。
 - 4 要旨本文中には、理解を助けるため、適宜情報を()で補い、文末に *として備考を設けた。
 - 5 本表はデータベースソフトを用いて日別に整理されたものの一部であり、今後記事の分類によるテーマごとの記事要旨年表へ発展させる計画である。

本表の作成は尾崎安啓が担当した。記事の理解の誤りや不備な点については、諸賢のご叱正を得ながら校訂を期することにしたい。

F	
年·月·日	記事の要旨
応永23年	
冒頭	日記今年より始む、以前は書かずと(「端裏書」)。
正月 1日	禁中正月節会、内弁今出川公行・続内弁広橋兼宣。仙洞御薬、陪膳公行。将軍家の親族拝に今出川實富、所望により初参。伏見宮に田向経良・
	重有等候ず。
正月 2日	院御薬、陪膳花山院大納言。楊梅中将親家に今様出歌を譲る。内裏淵酔 にて源持経、将軍義持の権威を背景に殿上人の座に列す。
正月 3日	院御薬、陪膳花山院大納言。
正月 6日	叙位、執筆は二条大納言(持基)。
正月 7日	禁中白馬節会、内弁花山院忠定。伏見宮に風流松拍参る(地下山村・木守、殿原田向・庭田・御所青侍ら)。
正月 8日	医師昌耆法眼、栄仁の脚気の治療に参る。
正月 9日	相国寺大塔(七重)落雷により焼失。北山女院夢想・天狗所行など雑説。
正月10日	今日、諸人・諸門跡・関白経嗣以下面々、室町殿へ参賀するも対面無し 。室町殿(義持)の帰亭を待たず退出の事に立腹の由。
正月11日	早朝、治仁・貞成・庭田重有等、雪の指月庵に行く。京より松拍参り、 猿楽等乱舞、禄物扇等賜う。伏見宮にて恒例の酒宴あり。
正月12日	十二日再度室町殿へ人々参賀するも御対面無しと。
正月13日	隆盛・経時・経興同道にて御所様(栄仁)へ参賀。栄仁親王、新御所(
	治仁王) へ万秋楽三帖・奥二拍子秘説を伝授さる。*「大通院殿御伝授 状」=「楽書集成」
正月14日	風呂始め。貞成、大光明寺の風呂に入る。
正月15日	地下村々(山村・三木・石井・舟津)より風流松拍参る。
正月16日	踏歌節会。内弁三条公量のところ将軍突鼻(とっぴ)により急に二条持 基。*同月十日の一件
正月18日	門前にて三毬杖。
正月19日	長照院(光明天皇内親王/法華寺長老)・今御所(?)入御。
正月20日	住心院豪融僧正参賀。
正月22日	今出川公富に初めて男子誕生。母は故菅原長頼娘(廿一年暮に迎えた室 嫁)。
正月24日	嫁)。 栄仁親王、貞成王に万秋楽・奥二拍子秘説を伝授さる。冷泉左馬頭永基 参賀、尺八吹く。大教院隆経律師参賀。*「大通院殿御伝授状」=「楽 書集成」
正月26日	万秋楽秘説の奥書下さる(二十四日伝授)。
正月27日	夜、庚申あり。新御所御方にて回茶・双六あり。
正月28日	正永・勝阿・祐誉律師等、参賀。一献あり。
正月30日	栄仁病気軽減につきお湯始め。昌耆法眼薬を献じ、禄を賜う。椎野殿(貞成連枝)、今出川隆富参り酒宴・歌舞あり。
2月 1日	蔵光庵主より、点心三種・茶子等を進む。休翁庵主七回忌にて鹿苑院主 顎隠、大光明寺長老徳祥以下僧衆招請さると。
2月 6日	栄仁本腹により賀酒。乾蔵主沙汰。
2月 7日	少納言常宗(清原良賢) 老齢の為、室町殿への参仕停止。来る二十八日 、内裏にて舞御覧あり。奉行勧修寺経興。将軍御沙汰。*「康富記」文 安元. 10/23
2月 8日	和歌御会あり。前もって出題し、この日披講する。終了後盃酌。梅花遊覧、法安寺参詣。
2月 9日	将軍義持、参内。一献料万疋・唐物五種持参。
2月10日	栄仁本復の賀酒あり。宮中男女各申沙汰。
2月11日	にわかに御歌会。抹香一寸燃焼の間に詠み勝負、懸物あり。
2月12日	今春初めて連歌あり。小川禅啓・廣時祗候。
	I was a second of the second o

年·月·日	記事の要旨
2月15日	光臺寺にて涅槃講あり。貞成聴聞。
2月16日	昨日の涅槃講捧物を僧らに送り遣わす。残りは男女でくじ引き。大原野祭へ今出川大納言實富参る。
2月17日	綾小路(源)信俊、伏見宮へ今春初参。勾當局、春日祭内侍として参行 し帰路伏見宮へ寄る。芝殿(田向経良室嫁)も参る、ともに珍客なり。
2月18日	勾當局、早朝より御所旧跡遊覧。勾當局女御前にて賜盃。
2月19日	今春楽初め。舞立五番。貞成、音曲稽古。
2月20日	にわかに御茶会あり。今後順事茶として結番し、懸物あり。
2月22日	世尊寺行豊伏見宮へ参る。是明房、涅槃講(十五日)の礼に来る。
2月23日	三位・重有等、寶泉のもとに森船新造を見に行く。連歌を催す。
2月24日	春彼岸(時正)結願。庭田重有青侍長政出家(法名行光)。恵舜蔵主が 、しばらくの暇乞いに来る。
2月26日	先日の順事回茶。貞成等当番により風流の懸物を用怠。
2月28日	三木善理が御所近隣地を無断で蔵光庵に売渡した事で伏見宮より政所禅 啓に苦情申し入れ。
2月29日	禁裏舞御覧あり。将軍義持沙汰。上皇の御所作無し。
3月 1日	先日、順事茶会あり。趣向を凝らした風流・懸物あり。*伏見院宸筆一巻
3月 3日	桃花宴あり。当所、鶏飼わざるにより鶏闘無し。行豊連歌張行。
3月 4日	栄仁本復に付、大光明寺にて花見。治仁・貞成等、寺長老と出会う。一 行、大光明寺から惣得庵へ招引さる。貞成幼少時依頼の来庵。昨日の連 歌百韻続きを行う(世尊寺行豊)。*御手本(権跡)
3月 6日	京都大火あり。上杉一族屋形炎上。
3月 7日	順事茶あり。綾小路三位・寿蔵主・地下政所禅啓頭役申沙汰。その後音 楽芸能あり、廣時猿飼姿で舞う。*「廣時天性有骨者也」
3月 9日	晩に治仁・貞成等遊山し蕨等持ち帰る。伝聞、後小松院で猿楽(梅若) あり。
3月10日	御香宮神事あり、楽頭八田愛王大夫は去年罪科により八田庄を追われ隠居。ただし脇猿楽には丹波猿楽を雇う。*大法師丹波猿楽
3月11日	猿楽昨日同様行う。鹿苑院主鄂隠和尚以下権門僧侶見物。将軍義持、石 清水八幡社参。
3月12日	鳥羽院御物「御拍子」を源宰相が貞成より預かる。
3月16日	勧修寺御比丘尼(常盤井宮息女)伏見宮へ御参。栄仁本復祝い
3月17日	栄仁、勧修寺比丘尼をもてなす。
3月19日	伏見宮にて楽あり。のち庭田邸にて花見・楽あり。
3月22日	三位入道通公一献持参。
3月23日	栄仁老病にて没後御領安堵を仙洞へ申す件で正永(永基代)を伏見宮に 召す。(聞)夜、除目あり、執筆は花山院忠定。
3月24日	菊弟左府より状あり。廿七日仙洞にて御会、上覧に備え和歌ニ百用意あ り。
3月25日	今夜、仙洞御遊の習礼あり。御所様も朗詠と云々。終夜大飲。猿楽等あり。(聞)夜、除目入眼。
3月26日	(聞)西園寺右大将實永、今夜拝賀。散状(殿上地下前駆・隨身番長)。
3月27日	仙洞両席御会あり。左府(今出川公行)雑熱にて不参。よって琵琶なし。
3月28日	今夜、庚申。
3月晦日	真珠院比丘尼御所入御。賽茶・三月盡の御歌(衆議判、披講明日)あり。
4月 1日	昨日の三月盡御歌の披講あり。衆議判にて右方勝。十種香等あり。
4月 6日	新御所・貞成等花見(山ツツジ)に出かける。松原芝居にて一献。
4月 9日	祖一勾当参り、平家を申す。
4月15日	新御所御方にて楽あり。重日楽の稽古を始める。(聞)南都にて常楽会あり。荒序所作の事で地下伶人間で競望あり、よって略す。

4月16日 法権会法用にて無辜あり(後日、豊原郷秋目録持参)。伏見宮でも薬あり、生仁親上発酵所作。 4月18日 権野(貞成連枝)昨日入來。父親(楽仁)を賞玩する。 4月19日 御薬あり。妙音天御法來。重日楽等。 4月22日 に関心会し、一名清水臨時祭の特めの先規に任せて行われる。入江殿今御所・岡殿、栄仁本復保いに参る。 4月23日 世尊寺行豊、石清水臨時祭の際の小忌装東を着し参る。貞成装東詳細を記す。一般の表表、上述の書籍を、の書籍を、の書籍を、の書籍を、の書籍を、の書籍を、の書籍を、の書籍を、	年·月·日	記事の要旨
4月18日 推野(貞成連校)昨日入来、父親(朱仁)を賞玩する。 4月20日 御薬あり。妙音天御法楽、重日楽等。 4月22日 御薬あり。妙音天御法楽、重日楽等。 4月22日 北東寺行豊、石清木臨時祭が代始の先規に任せて行われる。入江殿今御所・岡殿、柴仁本復祝いに参る。 4月23日 世東寺行豊、石清木臨時祭の際の小忌装束を着し参る。貞成装束詳細を記す。 4月23日 世東寺行豊、石清木臨時祭の際の小忌装束を着し参る。貞成装束詳細を記す。 4月24日 祖一、平家申寸。光台寺新造風呂(造主宝泉)に栄仁・貞成等紹かれる。*編子=「兼賞公記」24.1/8 4月24日 祖一、平家申寸。光台・育路とし、将軍へ注進、褒美あり。 4月25日 北野社に恠島田現。宮仕これを射落とし、将軍へ注進、褒美あり。 4月26日 北野社に佐島田現。宮仕これを射落とし、将軍へ注進、褒美あり。 4月29日 常楽会あり。北台、寶泉が進上する。 5月2日 御薬あり。栄仁・治住琵琶所作。(間)今日から等持寺八講始まる。 5月2日 御薬あり。衆仁・治住琵琶所作。(間)今日から等持寺八講始まる。 5月3日 御薬あり。泉心に発していて治社・重有と論金する。郷・平家歌共撰集双子・「諸の作者に入て治社・重有と論金する。郷・平家歌共撰集双子・「諸の作者活にくすこを運呈する。他着の山瀬安等の(間)穹茂鏡馬見、物中に裏松家人と畠山家人が喧嘩、九条演教寺へ強盗、八条中将公興(九条家礼、西閩寺学)一人で助歌、高名の至・強盗、八条中将公興(九条家人と園山家大が喧嘩、九条瀬教亭へ強盗、八条中将公興(九条家人と園山家大が喧嘩、九条海教亭へ強盗、八条中将公興(九条家人、西閩・等持寺八議諸節する(5/2~)。一人の「中本・大寺町・神の」が悪性の腫れ物で死去。「道、貞成不参」」「一会」「中、大寺町・寺僧寺の」「中、中、大寺町・寺僧寺の「中、大寺町・神の」「東、本法安寺田段銭」「月19日		法華会法用にて舞楽あり(後日、豊原郷秋目録持参)。伏見宮でも楽あ
4月20日 御寒あり。妙音天御法楽、重日楽等。 4月20日 「関)今日、石清水臨時祭が代始の先規に任せて行われる。入江殿今御所・岡殿、栄仁本後心に参名。 は中寺行豊、石清水臨時祭の際の小忌装束を着し参名。貞成装束詳細を記す。 4月23日 置を禁あり、典侍広橋兼宣息女(綱子)。住心院溪基法印参名。祖一(盲僧)参り平家申す。光台寺新造風呂(造主宝泉)に栄仁・貞成等招かれる。*綱子=「兼宣公記」24.1/8 は一、平家申す。その後播州へ下る由にて貞成琵琶弦を与える。4月26日 光野社に作島田現。宮仕とれる北京と東軍へ長い、発生、東華配・「東京に作島田地」では、東京と、東京と、東京と、東京と、東京と、東京と、東京と、東京と、東京と、東京と		
4月20日 (開)今日、石清水臨時祭が代始の先規に任せて行われる。入江慶今御所・開慶、栄仁本復祝いに参る。 4月23日 世尊寺行豊、石清水臨時祭の際の小忌装束を着し参る。貞成装束詳細を記す。 4月23日 賀茂祭あり、典侍広橋兼宜息女(綱子)。住心院深基法印参る。祖一(盲僧)参り平京申す。光台寺新造風呂(造主宝泉)に栄仁・貞成等招かれる。*綱子=「兼宣公記」24.1/8 4月24日 祖一、平家申寸。光台寺新造風呂(造主宝泉)に栄仁・貞成等招かれる。・綱子=「兼宣公記」24.1/8 4月25日 北野社に恠島田現。宮仕これを射落とし、将軍へ注進、褒美あり。4月26日 北野社に恠島田現。宮仕これを射落とし、将軍へ注進、褒美あり。4月26日 東手配 御棄あり。栄仁・活亡琵琶所作。(開)今日から等持寺八講始まる。5月2日 御薬あり。米仁・活亡琵琶所作。(開)今日から等持寺八講始まる。5月3日 御薬あり。北台・徳の「本衛和北京近国の律僧等参集。御連歌あり、貞成が歌の作者だついて治立を連呈する。祝着の由御返事あり。(開)賀茂鏡馬見物中に妻松家人と畠山家人が喧嘩。九条満教亭へ強盗、八条中持寺八講治順で会出川実富出住。新中に妻松家人と畠山家人が喧嘩。九条満教亭へ強盗、八条中持会、関・衛中に妻松家人と畠山家人が喧嘩。九条満教亭へ強盗、八条中持会、「他、大光明寺清都主参寺の、明日の亡父三十三回忌に栄仁の聴聞を願い、承諾5月6日 第仁・大光明寺清本書・(中田神な (実楽寿に) 東京 (開)窓光寺・八諸治順する(5/2~)。 5月8日 大光明寺清本寺・御・代・田神な (安楽寿に) を理の権・出かける。豊原郷教参り御楽あり。(別)登鏡書り、大光明寺清本寺・御・後・神・徳・大田神な (東京市・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・		
・		
4月22日 世尊寺行豊、石清水臨時祭の際の小忌装束を着し参る。貞成装束詳細を記す。 4月23日 賀茂祭あり、典侍広橋兼宣息女(綱子)。住心院深基法印参る。祖一(盲僧)参り半家申す。その後播州へ下る由にて貞成琵琶弦を与える。 4月24日 祖一、平家申す。その後播州へ下る由にて貞成琵琶弦を与える。 4月25日 北野社に恠鳥出現。宮仕これを射落とし、将軍へ注進。褒美あり。 4月25日 光野社に佐島出現。宮仕これを射落とし、将軍へ注進。褒美あり。第一年 東子郎		一・岡殿、栄仁本復祝いに参る。
## 4月23日 質茂祭あり、典侍広橋兼官息女(綱子)。住心院深基法印参る。祖一(自僧)参り平家申す。光台寺新造風呂(造主宝泉)に栄仁・貞成等招かれる。* # 4月24日 祖一、平家申す。光台寺新造風呂(造主宝泉)に栄仁・貞成等招かれる。* # 4月26日 北野社に作品出現。宮仕これを射落とし、将軍へ正進、褒美あり。	4月22日	世尊寺行豊、石清水臨時祭の際の小忌装束を着し参る。貞成装束詳細を
4月26日 祖一、平家申す。その後播州へ下る由にて貞成琵琶弦を与える。 4月26日 北野社に恠鳥田鬼。宮仕これを射落とし、将軍へ注進。褒美あり。 4月26日 栄仁、耳聞こえず。昌耆(医師)亀の小便を混ぜた薬が良いと進言。早速手配 常薬会あり。花台、寶泉が進上する。 5月2日 御楽あり。栄仁・治仁琵琶所作。(聞)今日から等持寺八講始まる。5月3日 (関)字治橋供養あり。南都北京近国の律僧等参集。御連歌あり、貞成が歌の作者について治仁・重有と論争する。*平家歌共撰集双子 5月4日 将軍・若君にくす玉を進呈する。祝着の由御返事あり。(聞)等持寺八講に今出出「裏盤出仕。 物句(端字)の儀あり。貞成風呂に入る。御連歌あり。(聞)質茂競馬見物中に裏松家人と畠山家人が喧噪、九条流海等〜強盗、八条中将公興(九条家礼、西園寺?)一人で防戦、高名の至り。 第一年記書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書書	4月23日	賀茂祭あり、典侍広橋兼宣息女(綱子)。住心院深基法印参る。祖一(盲僧)参り平家申す。光台寺新造風呂(造主宝泉)に栄仁・貞成等招か
# 4月26日 栄仁、耳聞こえず。昌蓍(医師)亀の小便を混ぜた薬が良いと進言。早	4月24日	
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	4月25日	北野社に恠鳥出現。宮仕これを射落とし、将軍へ注進。褒美あり。
4月29日 常楽会あり。花台、寶泉が進上する。 6月2日 御楽あり。栄仁・治仁琵琶所作。(関)今日から等持寺八講始まる。 5月3日 (間)宇治橋供養あり。南都北京近国の律僧等参集。御連歌あり、貞成が歌の作者について治仁・・重有と論争する。*平家歌共撰集双子 5月4日 将軍・若君にくす玉を進呈する。祝着の由御返事あり。(関)等持寺八講に今出川実富出仕。 節句(端午)の儀あり。貞成風呂に入る。御連歌あり。(関)等持寺八講信や出い家と、人条中将公興(九条家礼、西園寺?)一人で防戦、高名の至り。 発仁、今年になって初めて指月庵へ出かげる。豊原郷秋参り御楽あり。(関)等持寺八講結願する。(5/2~)。 5月8日 大光明寺得郡主参り,明日の亡父三十三回忌に栄仁の聴聞を願い、承諾さる。(関)第光寺師仲(光仲息)が悪性の腫れ物で死去。 5月9日 卓成、大光明寺へ御聴聞に行く。治仁・椎野も同道。貞成不参。三位、竹田御塔(安楽寿院)の修理のことで出京。*法安寺田段銭 周乾(貞成連枝)参る。栄仁を交えて西宴あり。*法安寺田段銭 万月20日 真成、他所へ預けている文書を持って来させ披見し虫払いする。・楽あり。第月21日 重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。 第月22日 九条郎(講教)今先日強盗自羊を預かる。貞成初めて羊を見る。 禁裏→世尊寺行豊→三位と自羊を預かる。貞成初めて羊を見る。 4年、遊修として地蔵講を発願し催す。次に講演として薬あり。御所作あり。 5月25日 重日楽あり。その後楽仁の神せにより講政楽あり。各々請取も練習不足、支書生払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で樹文・詮議定文)等。 第月27日 重日楽あり。その後楽仁の神せにより請取薬あり。各々請取も練習不足、文書のは、大月宮に姿り栄仁と雑談。 5月30日 東京教園法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。唱食の暴行事件が発端。 4月1日 六月一日恒例の愛染会行の礼る。東寺教園法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。唱食の暴行事件が発端。 6月1日 六月一日恒列変染会行かれる。東寺教園法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。唱食の暴行事件が発端。 6月1日 六月一日恒列変染会行かれる。東京教園法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。『恵と近衛の幕のと間き、楽仁まれる召す。 6月1日 日間の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。 7個庵にで明見庵主一三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ	4月26日	
5月 2日 御楽あり。栄仁・治仁琵琶所作。(聞) 今日から等持寺八講始まる。 5月 3日 (間) 字信橋供養あり。南都北京近国の律僧等参集。御連歌あり、貞成が歌の作者について治仁・重有と論争する。半字歌供撰集双子 将軍・若君にくす玉を進呈する。祝着の由御返事あり。(聞) 等持寺八講に今出川実富出仕。 5月 5日 節句(端午)の儀あり。貞成風呂に入る。御連歌あり。(間) 賀茂競馬見物中に裏松家人と畠山家人が喧嘩。九条満教亭へ強盗、八条中将公興(九条家礼、西園寺?) 一人で防戦、高名の至り。 第二 大光明寺得都主参り、明日の亡父三十三回忌に栄仁の聴聞を願い、承諾5月 9日 早朝より栄仁、大光明寺御神仲(光仲息)が悪性の腫がで死去。 5月 9日 早朝より栄仁、大光明令御師間に行く。治仁・権で死去。 5月 17日 月乾(貞成連枝)参る。栄仁を交えて酒宴あり。 三位、竹田御塔(安楽寿院)の修理のことで出京。*法安寺田段銭 5月 19日 真成、他所へ預けている文書を持って来させ披見し虫払いする。楽あり。第月19日 裏あり。栄仁御所作(観報) 5月 20日 薬あり。栄仁御酬物 条日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。 5月 21日 東京・京がら帰り、春日・日吉・八幡等各方面の佐異を語る。凶事の前兆か。 5月 22日 大条邸(満教) へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。 5月 24日 東京・京がら帰り、春日・日吉・八幡等各方面の佐異を語る。凶事の前第122日 東京・京がら帰り、春日・日吉・八幡等各方面の佐異を語る。凶事の前第122日 東京・京がら帰り、春日・日吉・八幡等各方面の佐異を語る。 4月 2日 東京・京・京・京・京・京・京・京・京・京・京・京・京・京・京・京・京・京・京・	4月29日	
5月 3日 (間)宇治橋供養あり。南都北京近国の律僧等参集。御連歌あり、貞成が歌の作者について治仁・重有と高。*平家歌共撰集双字持寺八講に今出川実富出住。す玉を進呈する。祝着の由御返事あり。(間)賀茂競馬見物中に裏松家人と畠山家人が喧噪、九条満教亭へ強盗、八条中将公興(九条家礼、西園寺?)一人で防戦、高名の至り。(閉)賀茂競馬見物中に裏松家人と畠山家人が喧噪、九条満教亭へ強盗、八条中将公興(九条家礼、西園寺?)一人で防戦、高名の至り。「関)等持寺八講結願する(5/2~)。 5月 6日 栄仁、今年になって初めて指月庵へ出かける。豊原郷秋参り御楽あり。(間)等持寺八講結願する(5/2~)。 5月 8日 大光明寺得都主参り、明日の亡父三十三回忌に栄仁の聴聞を願い、承諾さる。(間)※光寺師仲(光仲息)が悪性の腫れ物で死去。 5月 9日 早朝より菜仁、大光明寺の御を贈に行く。治仁・推野も同道。貞成不参。三位、竹田御楷(安楽寿院)の修理のことで出京。*法安寺田段銭5月19日 周乾(貞成連枝)参る。栄仁を交えて酒宴あり。 5月19日 周乾(貞成連枝)参る。栄仁を交えて酒宴あり。 5月20日 薬あり。栄仁御所作(鞨教)。 5月21日 重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。 5月22日 九条邨(満教)へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。「大月20日 東る、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一		
5月 4日 将軍・若君にくす玉を進呈する。祝着の由御返事あり。(開)等持寺八講に今出川実富出仕。 5月 5日 節句(端午)の儀あり。貞成風呂に入る。御連歌あり。(開)賀茂競馬見物中に裏松家人と畠山家人が喧嘩。九条満教亭へ強盗、八条中将公興(九条家礼、西園寺?)一人で防戦、高名の至り。 5月 6日 栄仁、今年になって初めて指月庵へ出かける。豊原郷秋参り御楽あり。(開)等持寺八講結願する(5/2~)。 5月 8日 大光明寺得郡主参り,明日の亡父三十三回忌に栄仁の聴聞を願い、承諾さる。(開)窓光寺師仲(光仲息)が悪性の腫れ物で死去。同意の見成不多。三位、竹田御塔(安楽寿院)の修理のことで出京。*法安寺田段銭5月17日 周乾(貞成連枝)参る。栄仁を交えて酒宴あり。 5月19日 貞成、他所へ預けている文書を持って来させ披見し虫払いする。楽あり。第月20日 楽あり。栄仁御所作(鞨戦)。 5月21日 重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。 5月22日 九条邸(満教)へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。5月24日 栄仁、逆修として地蔵講を発願し催す。次に講演として楽あり。御所作あり。おり。本妻中世尊詩行豊子三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。5月27日 重日楽あり。その後栄仁の仲せにより請取楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。5月30日 電日楽あり。その後栄仁と雑談。 6月 1日 六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印佚養す。幕府、相国寺を実具所持の疑いで寺内捜索。喝食の集行事件が発端。第一次月二日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印佚養す。幕府、相国寺を「大具所持の疑いで寺内捜索。略食の集行事件が発端。第一次長宮近所の新堂で法華経を設じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。6月 4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。6月 6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。6月 7日 恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。	5月 3日	(聞)宇治橋供養あり。南都北京近国の律僧等参集。御連歌あり、貞成が
5月 5日 節句(端午)の儀あり。貞成風呂に入る。御連歌あり。(聞賀茂競馬見物中に裏松家人と畠山家人が喧嘩。九条満教亭へ強盗、八条中将公興(九条家礼、西園寺?)一人で防戦、高名の至り。 栄仁、今年になって初めて指月庵へ出かける。豊原郷秋参り御楽あり。(聞)等持寺八講結願する(5/2~)。 大光明寺得都主参り、明日の亡父三十三回忌に栄仁の聴聞を願い、承諾さる。(間)等先寺八講結願する(5/2~)。 大光明寺得都主参り、明日の亡父三十三回忌に栄仁の聴聞を願い、承諾さる。(間)を光寺師仲(光仲息)が悪性の腫れ物で死去。 早朝より栄仁、大光明寺へ御聴聞に行く。治仁・椎野も同道。貞成不参。三位、竹田御塔(安楽寿院)の修理のことで出京。*法安寺田段銭周前(貞成連枝)参る。栄仁を交えて酒宴あり。 5月17日	5月 4日	将軍・若君にくす玉を進呈する。祝着の由御返事あり。(聞)等持寺八講
 5月 6日 栄仁、今年になって初めて指月庵へ出かける。豊原郷秋参り御楽あり。(間)等持寺八講結願する(5/2~)。 5月 8日 大光明寺得都主参り、明日の亡父三十三回忌に栄仁の聴聞を願い、承諾さる。(開)慈光寺師仲(光仲息)が悪性の腫れ物で死去。 5月 9日 早朝より栄仁、大光明寺へ御聴聞に行く。治仁・椎野も同道。貞成不参。三位、竹田御塔(安楽寿院)の修理のことで出京。*法安寺田段銭周乾(貞成連枝)参る。栄仁を交えて酒宴あり。 5月17日 貞成、他所へ預けている文書を持って来させ披見し虫払いする。楽あり。 5月20日 楽あり、栄仁御所作(鞨敬)。 5月21日 重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。 5月22日 九条邸(満教)へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。 5月24日 完正の後として地蔵講を発願し催す。次に講演として楽あり。御所作あり。 5月25日 御脳により聖廟祈祷の為、御連歌法楽あり。各々請取も練習不足、文書里払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で樹文・詮議定文)等。要融僧正、伏見宮に参り栄仁と雑談。 6月 1日 六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。喝食の暴行事件が発端。 6月 2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。 6月 3日 伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。 6月 4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。 6月 6日 1日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。恒例の祇園会中から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。 6月 8日 行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ 	5月 5日	節句(端午)の儀あり。貞成風呂に入る。御連歌あり。(聞)賀茂競馬見物中に裏松家人と畠山家人が喧嘩。九条満教亭へ強盗、八条中将公興(
 5月8日 大光明寺得都主参り、明日の亡父三十三回忌に栄仁の聴聞を願い、承諾さる。(聞)慈光寺師仲(光仲息)が悪性の腫れ物で死去。 早朝より栄仁、大光明寺へ御聴聞に行く。治仁・椎野も同道。貞成不参。三位、竹田御塔(安楽寿院)の修理のことで出京。*法安寺田段銭 5月17日 周乾(貞成連枝)参る。栄仁を交えて酒宴あり。 6月19日 貞成、他所へ預けている文書を持って来させ披見し虫払いする。楽あり。第月20日 楽あり。栄仁御所作(鞨鞁)。 5月21日 重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。 5月22日 九条邸(満教)へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。 5月24日 (満教)へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。 5月27日 重日楽あり。その後栄仁の仰せにより請政楽あり。御所作あり。 5月27日 重日楽あり。その後栄仁の仰せにより請政楽あり。各々請取も練習不足、支書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。豪融僧正、伏見宮に参り栄仁と雑誌。 6月1日 六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。喝食の暴行事件が発端。 6月2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。 6月4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。 6月6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。 6月7日 恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。 6月8日 行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ 	5月 6日	栄仁、今年になって初めて指月庵へ出かける。豊原郷秋参り御楽あり。(
5月 9日 早朝より栄仁、大光明寺へ御聴聞に行く。治仁・椎野も同道。貞成不参。三位、竹田御塔(安楽寿院)の修理のことで出京。*法安寺田段銭 5月17日 周乾(貞成連枝)参る。栄仁を交えて酒宴あり。 5月19日 貞成、他所へ預けている文書を持って来させ披見し虫払いする。楽あり。 5月20日 楽あり。栄仁御所作(鞨鞁)。 5月21日 重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。 5月22日 九条邸(満教)へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。 5月24日 栄仁、逆修として地蔵講を発願し催す。次に講演として楽あり。御所作あり。 5月25日 御脳により聖廟祈祷の為、御連歌法楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。 5月30日 東あり。その後栄仁の仰せにより請取楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。 5月30日 京融僧正、伏見宮に参り栄仁と雑談。 6月 1日 六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。喝食の暴行事件が発端。 6月 2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。6月 3日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。6月 6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。	5月 8日	大光明寺得都主参り、明日の亡父三十三回忌に栄仁の聴聞を願い、承諾
5月17日 周乾 (貞成連枝) 参る。栄仁を交えて酒宴あり。 5月19日 貞成、他所へ預けている文書を持って来させ披見し虫払いする。楽あり。 5月20日 楽あり。栄仁御所作(鞨鞁)。 5月21日 重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。 5月22日 九条邸 (満教) へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。 第月24日 一次修として地蔵講を発願し催す。次に講演として楽あり。御所作あり。 5月25日 御脳により聖廟祈祷の為、御連歌法楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。 5月27日 重日楽あり。その後栄仁の仰せにより請取楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。 5月30日 豪融僧正、伏見宮に参り栄仁と雑談。 6月1日 六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。喝食の暴行事件が発端。 6月2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。6月3日 伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。6月4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。6月6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。6月7日 恒例の祗園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。	5月 9日	早朝より栄仁、大光明寺へ御聴聞に行く。治仁・椎野も同道。貞成不参 。三位、竹田御塔(安楽寿院)の修理のことで出京。*法安寺田段銭
5月20日 楽あり。栄仁御所作(鞨鞁)。 5月21日 重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。 5月22日 九条邸(満教)へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。 5月24日 栄仁、逆修として地蔵講を発願し催す。次に講演として楽あり。御所作あり。 5月25日 御脳により聖廟祈祷の為、御連歌法楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。 5月30日 東京の経栄仁の仰せにより請取楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。 6月1日 大見宮に参り栄仁と雑談。 6月1日 大見宮に参り栄仁と雑談。 6月2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。6月3日 伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。6月4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。6月6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。6月7日 恒例の祗園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。	5月17日	周乾(貞成連枝)参る。栄仁を交えて酒宴あり。
5月21日 重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。 5月22日 九条邸(満教)へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。 5月24日 栄仁、逆修として地蔵講を発願し催す。次に講演として楽あり。御所作あり。 5月25日 御脳により聖廟祈祷の為、御連歌法楽あり。 5月27日 重日楽あり。その後栄仁の仰せにより請取楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。 5月30日 豪融僧正、伏見宮に参り栄仁と雑談。 6月1日 六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。喝食の暴行事件が発端。 6月2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。 6月3日 伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。 6月4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。 6月6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。 6月7日 恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。	5月19日	
5月21日 重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前兆か。 5月22日 九条邸(満教)へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。 5月24日 栄仁、逆修として地蔵講を発願し催す。次に講演として楽あり。御所作あり。 5月25日 御脳により聖廟祈祷の為、御連歌法楽あり。 5月27日 重日楽あり。その後栄仁の仰せにより請取楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。 5月30日 豪融僧正、伏見宮に参り栄仁と雑談。 6月1日 六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。喝食の暴行事件が発端。 6月2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。 6月3日 伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。 6月4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。 6月6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。 6月7日 恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。	5月20日	
5月22日 九条邸(満教)へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。 禁裏→世尊寺行豊→三位と白羊を預かる。貞成初めて羊を見る。	5月21日	重有、京から帰り、春日・日吉・八幡等各方面の恠異を語る。凶事の前
5月24日 栄仁、逆修として地蔵講を発願し催す。次に講演として楽あり。御所作あり。 5月25日 御脳により聖廟祈祷の為、御連歌法楽あり。 5月27日 重日楽あり。その後栄仁の仰せにより請取楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。 5月30日 豪融僧正、伏見宮に参り栄仁と雑談。 6月1日 六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。喝食の暴行事件が発端。 6月2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。 6月3日 伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。 6月4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。 6月6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。 6月7日 恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。 6月8日 行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ	5月22日	九条邸(満教)へ先日強盗あり、よって三位が栄仁の使いとして参る。
5月25日 御脳により聖廟祈祷の為、御連歌法楽あり。 5月27日 重日楽あり。その後栄仁の仰せにより請取楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。 5月30日 豪融僧正、伏見宮に参り栄仁と雑談。 6月1日 六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。喝食の暴行事件が発端。 6月2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。6月3日 伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。6月4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。6月6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。6月7日 恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。	5月24日	栄仁、逆修として地蔵講を発願し催す。次に講演として楽あり。御所作
5月27日 重日楽あり。その後栄仁の仰せにより請取楽あり。各々請取も練習不足。文書虫払い、藤原行成真筆一巻(神鏡炎上の件で勘文・詮議定文)等。 5月30日 豪融僧正、伏見宮に参り栄仁と雑談。 6月 1日 六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。喝食の暴行事件が発端。 6月 2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。 6月 3日 伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。 6月 4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。 6月 6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。 6月 7日 恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。 6月 8日 行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ	5月25日	
5月30日豪融僧正、伏見宮に参り栄仁と雑談。6月 1日六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を兵具所持の疑いで寺内捜索。喝食の暴行事件が発端。6月 2日来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。6月 3日伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。6月 4日世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。6月 6日九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。6月 7日恒例の祗園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり。6月 8日行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ	5月27日	重日楽あり。その後栄仁の仰せにより請取楽あり。各々請取も練習不足
6月 1日 六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を 兵具所持の疑いで寺内捜索。喝食の暴行事件が発端。 6月 2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。 6月 3日 伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。 6月 4日 世尊寺行豊・蔵入重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。 6月 6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。 6月 7日 恒例の祗園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演 奉行として参る。楽稽古あり。 6月 8日 行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ	5月30日	
6月 2日 来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する。 6月 3日 伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。 6月 4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。 6月 6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。 6月 7日 恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演 奉行として参る。楽稽古あり。 6月 8日 行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ		六月一日恒例の愛染会行われる。東寺教遍法印供養す。幕府、相国寺を
6月 3日 伏見宮近所の新堂で法華経を談じる伝明僧の事を聞き、栄仁これを召す。 6月 4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。 6月 6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。 6月 7日 恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演 奉行として参る。楽稽古あり。 6月 8日 行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ	6月 2日	来る九日の明見庵主の三十三回忌法要の講演の為、栄仁等楽を練習する
6月 4日 世尊寺行豊・蔵人重仲等、宇治今伊勢へ参詣の帰路に指月庵に参る。 6月 6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。 6月 7日 恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演 奉行として参る。楽稽古あり。 6月 8日 行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
6月 6日 九日講演の事、地下楽人の予定差し合いに付、八日に引き上げ。 6月 7日 恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演 奉行として参る。楽稽古あり。 6月 8日 行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ	L	
<u>奉行として参る。楽稽古あり。</u> 6月 8日 行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ	6月 6日	
6月 8日 行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ	6月 7日	恒例の祇園会今日から始まる。御内祭盃酌あり。行蔵庵主、明日の講演奉行として参る。楽稽古あり、
	6月 8日	行蔵庵にて明見庵主三十三回忌法要仏事(講演)に栄仁・貞成等出かけ

年·月·日	記事の要旨
6月 9日	栄仁、懺法事所望あるも、持病の風気再発し出御せず。点心。僧侶入浴
	。楽あり栄仁風気を押して聴聞。椿一、平家五句申す。
6月10日	楽あり。五辻教仲、伏見宮に参る。御領一変後疎遠なるも八幡の帰路立
6月11日	
	。貞成、豊原郷秋への安堵に付、老体無益と批判、競望の長広奉公停止をも批判。
6月12日	行蔵庵仏事(明見法要)に大光明寺長老以下八十余名の僧を招請。菊亭 (今出川)より貞成の事(料所)で栄仁に申入があり信俊に返事された。
6月13日	崇仁腰痛、三日病を疑うも、医師参り御風冷と診断し、薬を処方する。
	椎野より一口物語絵巻二巻 (聞、大覚寺殿御絵)を借覧する。郷秋に安 堵の地は元長広に同情し替え地の仰せ。*紙背149号→翻
6月14日	祇園会なれども栄仁体調すぐれず内祭なし。医師同阿投薬。
6月16日	日野一位入道(性光)納涼に伏見へ。公卿等船遊びで魚釣り、僧に制止
07100	さる。夜に椿一参り平家を申す。
6月17日	昨日の遊漁に付、大光明寺長老から処罰要求、三位奉行職を更迭さる。 菊亭左府公行、新御所の琵琶御灌頂を催促。
6月19日	医師同阿参り、栄仁の御脈をとる。容態良好に付、貞成喜ぶ。田向長資
	禁裏小番に初出仕。称光天皇刀弓で乱行に付将軍より厳密の沙汰。16日
6月20日	の魚釣り事件で三位御突鼻(とっぴ)に付、寿蔵主仲介し御免となる。 長資禁裏小番より帰る。聞、相国寺僧等百五十人魚食の疑いで逮捕さる。
6月21日	楽あり。貞成、栄仁より琵琶「仙家」を賜る。禅啓、魚釣の罪を御免さ
	1れる。* 紙背85号
6月23日	大光明寺長老、魚釣り事件落着に付、伏見宮へ御礼に参る栄仁対面せず 。相国寺魚食逮捕の僧、武具所持の僧許され大光明寺長老喜ぶ。
6月24日	栄仁老病に付、御領相続安堵の為名笛を院に進呈する考えを検討する。
6月25日	貞成、今日から三日間御領安堵祈念の為、泊瀬清水礼拝を始める。
6月26日	貞成等、炎暑に付、納涼の為御前船に乗り盃酌あり。名笛を院に献上し 安堵の件等お願いのところ近日御返事と勾當の報告あり。新御所琵琶御 灌頂の件、左府等の沙汰で決定。陰陽師日時勘進。
6月27日	泊瀬清水礼拝三日結願、貞成所願成就を喜ぶ。殿上にて雲脚順事(茶) あり。
6月28日	「貞成申沙汰にて順事茶会を催す。大光明寺の客僧物語を上手に語る。
6月30日	綾小路信俊参り、室町院遺領安堵院宣くださる由報告。貞成喜ぶ。
7月 1日	栄仁、勝阿に室町院領目録の内、当知行目録を明日整備するよう命じる 。仙洞御所(日野資教=性光邸)炎上。後小松院は三宝院に避難し無事。
7月 3日	順事茶あり。物語僧(大光明寺各僧)又参り山名英州謀及事を語る。人 光明寺と山田宮樹木伐採を機に境内社地所争い。宇治川で白蛇発見の噂。
7月 4日	栄仁、大光明寺と山田宮との社地木所属の争い、双方の言い分を聞く。
7月 5日	仙洞焼失に付、御所新造迄の間三宝院から勧修寺経興小川亭へ御座を勧める。新造事始め日時を土御門泰家十三日と勘進。費用段銭=守護一国 万疋、門築地=管領沙汰、地引=侍所一色等仰せ。
7月 6日	栄仁、仙洞へ火事見舞いの御書を勾当に付して送る。
7月 7日	七夕。伏見宮へ貞成を始め大勢の人々から花が集まる。物語僧・狂言・ 楽等。
7月 8日	(後聞) 相国寺鎮守八幡前で白蛇降る。近江でも龍降る。
7月 9日	仙洞より六日の火事見舞いの返事到来。献上の名笛無事との事。
7月10日	大光明寺長老参り山田宮木伐の件で文書持参し故障申す。栄仁判断を避ける。
7月12日	長広伏見宮門前で、加納芹河一村剥奪の件で貞成に嘆く。栄仁には対面 せず。
7月13日	仙洞御所新造事始め。作所奉行は富樫兵部大輔。御所の跡を侍所等で掃 除。

7月15日 盂蘭盆会運供養・施餓鬼あり貞成不参。貞成石井・船津の念仏拍物密に 7月16日 貞成、山城国桂里の石地蔵の霊験譚を記す。この石地蔵信仰の流行に関心。 4 り南向 (公行母・貞成養母) 痢病にて重体との知らせあり。 7月18日 南向の容態、一度こと切れ又息を吹き返すも、医師頼直の診断は絶望。 新御所琵琶湘灌頂の為、七日間の御楽を始める。妙一勾当、伏見宮へ参り平改を申す。 7月19日 窓光寺通光・綾小路信俊、新御所琵琶灌頂の奉行として伏見宮に参る。 また、妙一参り平母真修院老病に付一期領王御恩地を御比丘尼御所に護与申入。貞成の養母南向逝去す。 7月20日 入江殿今御所、伊真修院老病に付一期領王御恩地を御比丘尼御所に護与申入。貞成の養母南向逝去す。 7月21日 御薬あり。入浴。貞成、今日より故南向の為精進看経を始める。 7月22日 栄仁親王、園幸相基秀に催属楽秘曲を伝授する。終わって御楽あり。 7月23日 源幸相・三位・長資・寿蔵王等、柱地蔵参詣の為、明け方から出かける。南向、東山寶幢寺にて茶毘にふされる。 7月24日 地蔵講あり。栄仁、貞成に琵琶灌頂あり。奉行長資。*「大日本史料」 7−24 p19 7−24 p19 7−24 p19 7−25 間解由小路右衛門督入道親子、納涼の為とて伏見宮へ参る。寶泉坊に寄宿。 6項所御灌頂無為に付、源幸相に御盃を賜る。南向の初七日、貞成看経。貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を間す。 9貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 8月 1日 八朔の御遷に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 7月29日 貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 高倉常永死去の報を聞く。 9頁成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月 7日 宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源年前かて 10周へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。原本和一勾当 10周へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。原本和一勾当 10周へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。原本和一勾当 10周へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。原本和一勾当 10周へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整える。先例によ 115日 石清水版生会での神人訴訟一供に考させる。貞成も顧書奉納。 42日によ 42日にま 42日に 42日に 42日に 42日に 43日に 43日に 43日に 43日に 43日に 43日に 43日に 43	年·月·日	記事の要旨
○ 7月17日	7月15日	見物。
はり南向(公行母・貞成養母)痢病にて重体との知らせあり。 雨向の容骸、一度こと切れ又息を吹き返すも、医師頼直の診断は絶望。 新御所琵琶御灌頂の為、七日間の御楽を始める。妙一勾当、伏見宮へ参 り平家を申す。 著光寺通光・綾小路信俊、新御所琵琶灌頂の奉行として伏見宮に参る。 また、妙一参り平家を申す。 7月20日 入江殿今御所、母真傍院老病に付一期領主御恩地を御比丘尼御所に譲与申入。貞成の養母南向逝去す。 御楽あり。入浴。貞成、今日より故南向の為精進看経を始める。 7月22日 常空相基秀に催馬楽秘曲を伝授する。終わって御楽あり。 7月23日 源空相・三位・長資・寿蔵王等、桂地蔵参詣の為、明け方から出かける。南向、東山寶幢寺にて茶毘にふされる。 7月24日 地蔵講あり。栄仁、貞成に琵琶灌頂あり。奉行長資。*「大日本史料」 7-24 p419 7月25日 勘解由小路右衛門督入道親子、納涼の為とて伏見宮へ参る。寶泉坊に寄宿。 7月26日 新御所御灌頂無為に付、源空相に御盃を賜る。南向の初七日、貞成看経。貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。自成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞る。直成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞る。 8月1日 八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 8月1日 仰蛮より御憑のお返しとして牛一頭が届く。高倉常永死去の報を聞く。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源幸相→勾当局清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月15日 石清水が生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後遺化・慰幸納。 7名清水放生会にでの神人訴訟一件に行、裁許の御教書発給さる。先例によ		心。
新御所琵琶御灌頂の為、七日間の御楽を始める。妙一勾当、伏見宮へ参り平家を申す。 7月19日 終光寺通光・綾小路信俊、新御所琵琶灌頂の奉行として伏見宮に参る。また、妙一参り平家を申す。 7月20日 入江殿今御所、母真修院老病に付一期領主御恩地を御比丘尼御所に譲与申入。貞成の養御南向逝去す。 7月21日 御薬あり。入浴。貞成、今日より故南向の為精進看経を始める。 7月22日 栄仁親王、園幸相基秀に催馬楽秘曲を伝授する。終わって御楽あり。 7月23日 源幸相・三位・長資・寿蔵主等、桂地蔵参詣の為、明け方から出かける。南向、東山寶幢寺にて荼毘にふされる。 7月24日 地蔵講あり。栄仁、貞成に琵琶灌頂あり。奉行長資。*「大日本史料」7-24 p419 7月25日 勘解由小路右衛門督入道親子、納涼の為とて伏見宮へ参る。寶泉坊に寄宿。 7月26日 新御所御灌頂無為に付、源宰相に御盃を賜る。南向の初七日、貞成看経。貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を記す。 7月29日 貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 8月1日 八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 8月3日 御室より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月5日 匈当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局。 8月14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞茂任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞茂任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成語書奉納。		より南向(公行母・貞成養母)痢病にて重体との知らせあり。
また、妙一参り平家を申す。 7月20日 入江殿今御所、母真修院老病に付一期領主御恩地を御比丘尼御所に譲与申入。貞成の養母南向逝去す。 7月21日 御楽あり。入浴。貞成、今日より故南向の為精進看経を始める。 7月22日 栄仁親王、園宰相基秀に催馬楽秘曲を伝授する。終わって御楽あり。 7月23日 源宰相・三位・長資・寿蔵主等、桂地蔵参詣の為、明け方から出かける。南向、東山寶幢寺にて茶毘にふされる。 7月24日 地蔵講あり。栄仁、貞成に琵琶灌頂あり。奉行長資。*「大日本史料」 7-24 p419 7月25日 勘解由小路右衛門督入道親子、納涼の為とて伏見宮へ参る。寶泉坊に寄宿。 新御所御灌頂無為に付、源宰相に御盃を賜る。南向の初七日、貞成看経。貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を記す。 7月26日 貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 8月 1日 八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 8月 3日 御室より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 5日 御室より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 7日 勾当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 1日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰和→勾当局。 8月 1日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月 15日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月 16日 石清水枚生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ	7月18日	新御所琵琶御灌頂の為、七日間の御楽を始める。妙一勾当、伏見宮へ参り平家を申す。
中入。貞成の養母南向逝去す。 7月21日 御楽あり。入浴。貞成、今日より故南向の為精進看経を始める。 7月22日 栄仁親王、園宰相基秀に罹馬楽秘曲を伝授する。終わって御楽あり。 源字相・三位・長資・天養毘にふされる。 源字相・三位・長資・天養毘にふされる。明け方から出かける。南向、東山寶幢寺にて茶毘にふされる。 7月24日 地蔵講あり。栄仁、貞成に琵琶灌頂あり。奉行長資。*「大日本史料」 7-24 p419 7月25日 勘解由小路右衛門督入道親子、納涼の為とて伏見宮へ参る。寶泉坊に寄宿。 7月26日 新御所御灌頂無為に付、源宰相に御盃を賜る。南向の初七日、貞成看経。貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を記す。 7月29日 貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 8月 1日 八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 8月 3日 御室仁和寺へ御憑の進物。各家から伏見宮へも届く。高倉常永死去の報を聞く。 8月 5日 御室より御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 7日 勾当局より御憑のおぶ届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月 12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局。 8月 14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月 15日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。おより御等協議する。花山院大納言忠定逝去三日代参させる。貞成も願書奉納。 7月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ	7月19日	また、妙一参り平家を申す。
7月22日 栄仁親王、園幸相基秀に催馬楽秘曲を伝授する。終わって御楽あり。 7月23日 源幸相・三位・長資・寿蔵主等、桂地蔵参詣の為、明け方から出かける。南向、東山寶幢寺にて茶毘にふされる。 7月24日 地蔵講あり。栄仁、貞成に琵琶灌頂あり。奉行長資。*「大日本史料」 7-24 p419 7月25日 勘解由小路右衛門督入道親子、納涼の為とて伏見宮へ参る。寶泉坊に寄宿。 7月26日 新御所御灌頂無為に付、源宰相に御盃を賜る。南向の初七日、貞成看経。貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を記す。 7月29日 貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 8月 1日 八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 8月 3日 伊雪より御憑のお返しとして牛一頭が届く。高倉常永死去の報を聞く。 8月 5日 御室より御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 7日 勾当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月 12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月 14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 7日 石清水が生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 7日 石清水が生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ	7月20日	
7月23日 源宰相・三位・長資・寿蔵主等、桂地蔵参詣の為、明け方から出かける。南向、東山寶幢寺にて茶毘にふされる。 7月24日 地蔵講あり。栄仁、貞成に琵琶灌頂あり。奉行長資。*「大日本史料」 7-24 p419 7月25日 勘解由小路右衛門督入道親子、納涼の為とて伏見宮へ参る。寶泉坊に寄宿。 7月26日 新御所御灌頂無為に付、源宰相に御盃を賜る。南向の初七日、貞成看経。貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を記す。 7月29日 貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 8月 1日 八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 8月 3日 仰室仁和寺へ御憑の進物。各家から伏見宮へも届く。高倉常永死去の報を閲名とり御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 5日 御室より御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 7日 勾当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月 12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月 14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月 15日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。	7月21日	御楽あり。入浴。貞成、今日より故南向の為精進看経を始める。
7月23日 源宰相・三位・長資・寿蔵主等、桂地蔵参詣の為、明け方から出かける。南向、東山寶幢寺にて茶毘にふされる。 7月24日 地蔵講あり。栄仁、貞成に琵琶灌頂あり。奉行長資。*「大日本史料」 7-24 p419 7月25日 勘解由小路右衛門督入道親子、納涼の為とて伏見宮へ参る。寶泉坊に寄宿。 7月26日 新御所御灌頂無為に付、源宰相に御盃を賜る。南向の初七日、貞成看経。貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を記す。 7月29日 貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 8月 1日 八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 8月 3日 仰室仁和寺へ御憑の進物。各家から伏見宮へも届く。高倉常永死去の報を閲名とり御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 5日 御室より御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 7日 勾当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月 12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月 14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月 15日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。	7月22日	
7-24 p419 7月25日 勘解由小路右衛門督入道親子、納涼の為とて伏見宮へ参る。寶泉坊に寄宿。 7月26日 新御所御灌頂無為に付、源宰相に御盃を賜る。南向の初七日、貞成看経。貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を記す。 7月29日 貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 8月 1日 八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 8月 3日 御室仁和寺へ御憑の進物。各家から伏見宮へも届く。高倉常永死去の報を聞く。 8月 5日 御室より御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 5日 御室より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月 12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月15日 石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ	7月23日	源宰相・三位・長資・寿蔵主等、桂地蔵参詣の為、明け方から出かける 。南向、東山寶幢寺にて荼毘にふされる。
宿。 7月26日 新御所御灌頂無為に付、源宰相に御盃を賜る。南向の初七日、貞成看経。貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を記す。 7月29日 貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 8月 1日 八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 8月 3日 御室仁和寺へ御憑の進物。各家から伏見宮へも届く。高倉常永死去の報を聞く。 8月 5日 御室より御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 7日 勾当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月15日 石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ		7-24 p419
。 貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を記す。 7月29日 貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 8月 1日 八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 8月 3日 御室仁和寺へ御憑の進物。各家から伏見宮へも届く。高倉常永死去の報を聞く。 8月 5日 御室より御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 7日 勾当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月15日 石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ		宿。
7月29日 貞成、新造仙洞御所の門立柱の儀行われると聞く。 8月 1日 八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。 8月 3日 御室仁和寺へ御憑の進物。各家から伏見宮へも届く。高倉常永死去の報を聞く。 8月 5日 御室より御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 7日 勾当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月15日 石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ	7月26日	。貞成、升と小蛇、宇治今伊勢の白蛇、河原院聖天前の蛇三話の巷説を
8月 3日 御室仁和寺へ御憑の進物。各家から伏見宮へも届く。高倉常永死去の報を聞く。 8月 5日 御室より御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 7日 勾当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月15日 石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ	7月29日	
8月 3日 御室仁和寺へ御憑の進物。各家から伏見宮へも届く。高倉常永死去の報を聞く。 8月 5日 御室より御憑のお返しとして牛一頭が届く。 8月 7日 勾当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月15日 石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ	8月 1日	八朔の御憑に付、仙洞(後小松)・室町殿(義持)へ進物。
8月 7日 勾当局より御憑の品が届く。貞成進物到着が遅いと立腹。新御所御方で酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月15日 石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ		御室仁和寺へ御憑の進物。各家から伏見宮へも届く。高倉常永死去の報を聞く。
酒宴。 8月 9日 貞成、今日桂地蔵に風流拍物が参り見物人大勢、活況を呈すると聞く。 8月12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月15日 石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ	8月 5日	
8月12日 仙洞へ伏見宮家御領安堵の申請を目録を整えて提出する。源宰相→勾当局 8月14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月15日 石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ		酒宴。
局 8月14日 石清水八幡宮で放生会あり。次将として長資朝臣出仕。 8月15日 石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議 する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、 猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ		
8月15日 石清水放生会にて神人4名四二箇条の訴訟有りと申し閉籠。上卿等協議 する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、 猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ		局
する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、 猶子相続。栄仁、桂地蔵に三日代参させる。貞成も願書奉納。 8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ		
8月16日 石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例によ	8月15日	する。花山院大納言忠定逝去。病中宣下、死後還任。忠定は子供なし、
1 / 114/4 \/ 15/4 / 1 = /=/3/40 FM T 14 CE/2/4 \ / 15 15 15 15 15 15 15 1	8月16日	石清水放生会での神人訴訟一件に付、裁許の御教書発給さる。先例により隔月(来月)に延期。園宰相基秀、栄仁に椙甲の琵琶を献上。
8月17日 伏見庄地下人等、桂地蔵に風流拍物を演じる為に参る。(聞)将軍義持は 清和院地蔵に参籠し御堂を新造するとのこと。	8月17日	伏見庄地下人等、桂地蔵に風流拍物を演じる為に参る。(聞)将軍義持は 清和院地蔵に参籠し御堂を新造するとのこと。
8月19日 医師昌耆法眼参り、栄仁を診察する。旧冬の脚気再発か、腰痛にて起居 不叶。	8月19日	医師昌耆法眼参り、栄仁を診察する。旧冬の脚気再発か、腰痛にて起居
8月21日 医師昌耆法眼参り、十四味建中湯・御腰付薬を調進。胡銅瓶・御扇を賜 る。	8月21日	医師昌耆法眼参り、十四味建中湯・御腰付薬を調進。胡銅瓶・御扇を賜
8月23日 地蔵拍物(練行列)は、四条烏丸より唐人入洛の様を学ぶとのこと。	8月23日	地蔵拍物(練行列)は、四条烏丸より唐人入洛の様を学ぶとのこと。
8月25日 秋彼岸初日。故南向の三十五日忌に付、看経する。栄仁の腰痛に秘灸(医師心智客口伝)が効くと継首座が申し出る。	8月25日	医師心智客口伝)が効くと継首座が申し出る。
8月27日 大光明寺長老、栄仁病気平癒の祈祷大般若経転読結願報告。継首座灸治 する。	8月27日	大光明寺長老、栄仁病気平癒の祈祷大般若経転読結願報告。継首座灸治
8月28日 貞成の仕女今参局、着帯の儀。	8月28日	貞成の仕女今参局、着帯の儀。
9月 1日 御香宮の祭礼、夜の神幸・御旅所での相撲等、貞成等密かに見物する。	9月 1日	御香宮の祭礼、夜の神幸・御旅所での相撲等、貞成等密かに見物する。

年·月·日	記事の要旨
9月 2日	秋の彼岸結願。栄仁、病悩・訴訟等の祈願の為、桂地蔵に代官派遣し参
	<u>半</u> 明。
9月 3日	仙洞より室町女院御遺領安堵の院宣到来。永代御管領の記載あり。播州
9月 4日	国衙別納十ケ郷安堵の件は後日とのこと。諸願成就は桂地蔵の利生か。
9月 4日	伏見庄安堵の件・播州国衙の件は重ねて申し入れの由報告あり。(聞)将 軍義持、十一日に南都下向とのこと。*「後崇光院御文類」
9月 6日	 単義的、
9月 7日	明日は故南向の引上四十九日仏事に付、貞成自写の浄土三部経を菊亭へ
	遺す。
9月 8日	菊亭にて故南向の四十九日仏事あり、相国寺僧を招請し観音懺法を執行。
9月 9日	重陽の節句。御香宮祭礼に風流笠拍物参り貞成等、御所より見物する。
0 1 10 1	貞成今日より百日間四弦和歌等の稽古を始める。
9月10日 9月11日	伏見宮に獅子舞参る。禄物扇等を下さる。
9月11日	室町殿(義持)南都下向。教興その御点に入るも、急に参らず。
9月15日	仲秋の名月。和歌短冊廿首を披講。 生日延期の石港水が生みが無東行われる 上側以下繋がは三の通り
9月15日	先月延期の石清水放生会が無事行われる。上卿以下諸役は元の通り。 安町駅南邦上り標準 数田・行列次第を記す 河図中は寺間延年積率で
эл 10 н	室町殿南都より帰洛。警固・行列次第を記す。逗留中は寺門延年猿楽で 供応。義持、御領本復等の条件を再三申し入れ吉野より後亀山法皇を迎
	一人に、我们、呼吸不復守の未行を行二中し八月1日月より後電田仏主を建一える。
9月17日	山田宮神事猿楽あり。楽頭矢田愛王大夫、伊勢猿楽を雇う。貞成等密に
0.00	見物。
9月18日	御香宮猿楽。三位を使いとして、伏見庄安堵の件で広橋兼宣に催促する。
9月19日	三位より伏見庄・僧坊田・室町院領御教書の事を書に記載と報告あり。
9月20日	貞成瘧病か。経良息律師隆経、明日伝法灌頂との事、助成として牛一頭
9月21日	<u>遣す。治仁以下、月見岡で松茸狩をする。</u> 三位使いとして広橋邸に行くも兼宣外出にて御事書は渡さずということ
3)1211	。法安寺・権現猿楽あり。治仁、密かに権現猿楽を見物する。
9月22日	貞成、瘧病発作に付、弘法大師御筆のを水に濯ぎ飲む。良明房加持。
9月24日	地蔵講あり。広橋へ将軍招請し訴訟申次。仙洞より播州国衙院宣の件問
	題なしとの返書あり。称名院で寶泉亡母供養の如法経あり。経良息周郷
9月26日	が周乾と不和逐電。*院返書=「宸翰栄華」225号
9月20日	貞成瘧病発作起こる、法安寺良明房加持により治まる。
	真修院に法安寺田・播州国衙年貢等に付、安堵の御染筆あり。
9月28日	三位帰参し、広橋兼宣に御事書を渡したことを報告。貞成久しぶりに行水。
9月29日	かる院にて如法経あり。 称名院にて如法経あり。
9月30日	園宰相基秀に琵琶「村雲」を預遣す。元按察局父禅門土御門陬寂?の物。
10月 1日	椎野(貞成連枝)、寺(光明庵)に帰る。
10月 4日	栄仁、多年に渡り詠んだ歌を撰集するように貞成に命じる。如法経今夜
100 000	筆立。
10月 6日	栄仁、去る三月盡の御歌合の御点勝負に付、お尋ねのところ今日到来。
10月 7日	室町殿(義持)大光明寺に光臨。伏見宮御所の事等、長老から言葉添あり
10月 8日	り。 医師昌耆参り栄仁を診察、腰痛・脈は正常との事。栄仁、三位をして当
10/101	所僧坊田の件を広橋兼宣に仰付ける。
10月10日	伏見僧坊田は往古三御堂供料にあてるも供養有名無実に付勘落(没収)
	する。
10月11日	法安寺當所安久名の領有、文書にくい違いあり俊阿と訴訟。寺領勘落は
·	不適当。(聞)昨日より興福寺維摩会始まる。勧修寺経興、頭弁として南都へ。
10月13日	一日
	聞)上杉禅秀の乱発生。鎌倉公方持氏不意をつかれ駿河に逃れる。

年·月·日	記事の要旨
10月14日	桂地蔵に奉仕の阿波法師等、偽の功徳を語るとの罪で幕府に逮捕さる。
	□西岡男の罪は不問。貞成、地蔵の霊験は人力及ばず参詣者絶えずと記す。
10月15日	椎野六僧坊の件で伏見宮から仙洞へ院宣申請。院宣発給せらる。
10月16日	(聞)上杉禅秀と足利持氏三島で戦い、持氏敗れ切腹との報。
10月17日	智恩院隆守参る。僧坊田二口の件、広橋から将軍へ安堵の申請。許可さ れる。
10月20日	人麿影和歌御法楽あり。持氏切腹の話は虚説との報あり。情報混乱か。
10月22日	三位新築の屋敷に付、後の為御書(治仁染筆・栄仁袖御判)を賜る。今日で栄仁発願の桂地蔵三ヶ月代参が結願。同地蔵に御堂・鎮守社等建立 さるとのこと。
10月27日	治仁、蔵光庵で紅葉見物、順一勾當の平家を聴聞。即成院・行蔵庵にも 入御。
10月29日	(聞)足利持氏駿河へ逃れる。将軍評定し駿河守護今川範政等に救援を命じる。
10月30日	故南向百ケ日。僧坊田の事に付、醍醐寺と問答する。(聞)足利義嗣(義 持弟)逐電し高尾に隠居遁世、所領の申請不許可が原因か。
11月 1日	絵書僧が近辺にいるので頼んで小野道風の影(元絵頼寿法橋)を模写さ せる。
11月 2日	義嗣将軍の諌めにも従わず。黒衣着用し出家を望むも将軍を恐れて戒師 無し。
11月 3日	貞成顔拭を鼠に喰破られる。後筆にこれが凶事(大通院逝去)の前兆かと。(聞)三品息女が嫁入り、八幡へ向かう。今のところ周囲には知らせず。
11月 4日	小除目あり。大納言・中納言・参議・両蔵人等補任される。
11月 5日	義嗣仁和寺興徳庵(絶海中津塔頭)へ移住。野心者の奪取を恐れ警固を付く。同時に遁世した山科教高・裏松持光等は富樫に預けられ野心の有無を糾問さる。
11月 6日	貞成連枝恵舜、寶厳院塔頭に移住。御寮と玄経の確執・深草一村代官職 の争論
11月 8日	春日祭に勾當内侍参向す。頭弁勧修寺経興参向。
11月 9日	義嗣落髪し臨光院へ移住。山科教高・裏松持光は加賀へ配流。義嗣処分で畠山満家は切腹、管領細川満元は自重で意見対立。七日関東より援軍要請。花山院忠定没後の相続者無く、一族僧耕雲(南方近衛息)が猶子相続。
11月10日	大教院隆経(田向経良息)伝法灌頂の際の牛拝領のお礼に参る。
11月12日	貞成、十月四日より始めた御所(栄仁)御詠歌の撰集が終わる。医師昌 耆、栄仁に灸治する。
11月13日	大光明寺長老の懇請により栄仁御置文(寺領地下樹木伐採停止)を下賜する。
11月14日	粥順事、今日より始める。近衛局が沙汰。
11月15日	明日新造仙洞御所上棟の儀あり。祝儀引物として御馬献上を予定する。 長資、勘落の僧坊田の御恩拝領を望み、一部を賜う。
11月16日	仙洞御所上棟の儀あり。御馬に御書(治仁筆)を付け献上のところ後小 松院より勅筆返書あり。貞成、上棟の席で後小松院に栄仁親王の容態望 み無き事・播州国衙領院宣の件等を直奏する。
11月18日	初雪が降る。順事の薪あり。貞成室今参局、庭田邸内の産所に入る。
11月19日	貞成の室今参局(庭田幸子)、寅刻に女子(阿吾々)を無事出産。
11月20日	蔵光庵主、栄仁親王の臨終を告げる。大光明寺長老、室町殿に葬儀の相 談に鹿苑院主と会う。院主は崇光院葬儀の例(栄仁父、観応二年)通り 実施と返事。安堵院宣の件で親王薨逝を隠し奔走し六僧坊院宣のみ到来。
11月21日	周乾、故栄仁親王の置文を鹿苑院主に披露。置文には播磨国衙別納分一部を大光明寺へ寄進、葬儀は簡略に、位牌には「大通院無品親王」と記せと記載あり。将軍置文を拝見しその趣旨を認む。荼毘は廿四日と決まる。

年·月·日	記事の要旨
11月22日	伏見宮へ皇室・公家・寺院等の各方面から多数弔問あり。
11月23日	夜寅刻に栄仁親王の亡骸を御輿に乗せ大光明寺に運ぶ。貞成、栄仁六十 六歳にしてついに登極(即位)ならず生前の御遺恨此一事に在りと記す 。貞成、出棺の際に大光明寺長老の供奉無き事に「自由之至敷」と憤慨
11 11 04 11	する。
11月24日	大光明寺にて御荼毘の儀次第を記す(荒桧墻・黒木鳥居を建てる)。貞 成御荼毘の最中に人魂が桟敷辺から飛んだと後聞く。後筆に治仁王薨去 の前兆かと。
11月25日	今朝より御時結番始まる。義嗣反逆の企露見する。赤松与力と白状。
11月26日	故栄仁初七日。形通りの仏事なれども重有等故障申し奉行人なし無念と。
11月27日	栄仁親王逝去による服暇に付、陰陽師賀茂在弘は今月廿七日までと勘申。
11月28日	今日から故栄仁親王追善の法華経書写始まる。貞成は八之巻を担当する。
12月 1日	祝着之儀如形如例。
12月 2日	故栄仁親王の二七日の仏事。左府(今出川公行)より後小松院に報告と の状到来。栄仁親王の牛飼童乕石丸、主に殉じ出家の為、暇乞いに参る。 貞成、諷経に参った梅津湯陽院主と点心の最中に盃を交わす。
12月 3日	貝成、調栓に変つに個件傷傷院土と思いり取中に血を欠れり。
12月 5日	伏見宮より大光明寺仏事に点心料として五百疋遣わす。籠僧担当者で分配。牛飼童乕石丸、出家して伏見宮へ挨拶に参る。貞成「老体旁不便」 とこれを記す。
12月 7日.	故栄仁親王の三七日の仏事。多宝院主(大光明寺前住)等参る。
12月 8日	勧修寺門跡、浄土院の御使として参る。 貞成に別に言付けあり。
12月 9日	和気明盛(前典薬頭明成朝臣)参る。
12月10日	故西御方の年忌。斎点心あるも貞成持斎断酒に付、七日忌日には飲まず。
12月11日	法華寺長老光明院宮、頓写(経典)一部・奈良紙を三十五日追善の為進る。新御所(治仁王)・貞成等大光明寺にて焼風呂に入る。関東武衛より戦用の御旗所望に付、世尊寺行豊が旗文字を書く。
12月12日	【故栄仁親王四七日仏事。綾小路三位(信俊)甲沙汰。
12月13日	崇光院年忌引き上げ。大通院(栄仁)遺骨を深草法花堂へ納める。絶海中津、内裏にて称光天皇に御受衣之儀を行う。
12月14日	絶海中津、称光天皇に「浄印翼聖国師」の国師号を送る。将軍義持、天皇諱「躬仁」の文字に「弓」あるを嫌い、周囲相談して「實仁」と改める。
12月15日	香雲庵主、伏見宮にての点心を沙汰する。
12月16日	陰陽師泰継参る。大光明寺にて三十五日法要を引き上げて行う。青侍良政入道(良圓、貞成旧友)死去。義嗣謀反露見、関東謀反(上杉禅秀の乱)も仕業と山門南都語る。幕府、義嗣幽閉の臨光院の厳重警戒を命じる。
12月17日	大通院(栄仁)三十五日の法要、椎野沙汰で行われる。
12月18日	艮西堂、伏見宮へ焼香に参る。即成院坊主一献持参する。
12月19日	大通院(栄仁)の具足等遺品を取出し諸人に形見分けをする。目録別紙作成。
12月20日	大通院の御月忌始めの仏事行われ治仁新御所等焼香する。夜内侍所で御神楽。
12月21日	大通院六七日仏事を貞成沙汰にて引き上げて行う。岡殿より法華経等布施。明日大通院中陰結願なれども「例日」に付、今夕位牌を大光明寺総塔へ。
12月22日	大光明寺にて大通院御中陰結願。建仁寺前住、心知客(医師)等参る。 貞成、今日より三日間持斎断酒する。
12月23日	御仏事として面々入浴する。菊亭から法華経一部、御布施等届く。
12月24日	盡七之儀。早朝より道場の室礼を行う。御位牌を安置し諷経・観音懺法 行う。
12月25日	伏見宮にて盡七之儀結願する。大光明寺長老により拈香。六条庁経直(長講堂)参り拈香する。夜、精進明けて魚食する。

陽 のて
のて
のて
(
(
`
で
 連
連
禁
禁仙
r y.
様 東
木
復
す

宰
0
<u> </u>
を
す
<u>う。</u> 見
兀
門
史
寄
······································
,
<u>. </u>
È
).
御
/25

年·月·日	記事の要旨
正月24日	貞成、伏見宮御所旧跡を遊覧。帰路蔭蔵主等に勧められ指月庵へ立ち寄
T 00	り、和漢連句(云捨)あり。
正月26日	三位出京し鹿苑院主と会う。御安堵の件披露のところ将軍承諾との返事。
正月29日	勝阿祐誉参賀。貞成、勝阿旧冬大通院忌中の際黒衣着用の事で粗忽と非難。
正月30日	貞成、合奏百日まで自粛のところ一人で稽古する。(聞)将軍義持、今春 初めて後小松院へ参る。
2月 1日	新主治仁、故休翁庵主年忌で蔵光庵へ入御焼香。禅光御恩拝領の礼に参る。
2月 2日	伏見宮で博奕会あり。連日の張行に貞成、暗に治仁を非難。
2月 3日	夜、庚申待ち。三位、伏見宮の御使として仙洞へ参る(安堵の件)。春 日祭。
2月 4日	三位、院の御返事は年末年始で遅れているが、いい加減にはしない旨の 報告。(聞)冷泉為尹逝去とのこと。「歌道衰微之基」かと記す。
2月 5日	近衛局(貞成継母)、旧主霊前で今日から七日間百万遍念仏を勤行する。
2月 6日	豊原郷秋今春初めて参り、楽百日まで自粛に付、一人で笙を演奏する。
2月 7日	異様の医師参る。新主治仁以前顔見知りに付、診察を許し投薬させる。
2月 8日	伏見宮軒端の梅が枯れたので重有等梅の木を持ち寄り、庭に植える。(聞) 醍醐と山科の土民確執し、玉櫛禅門が巻き込まれる事件発生。玉櫛これを三宝院に愁訴し同院幕府に訴える。将軍、侍所一色に命じこれを検断する。
2月 9日	「「「「「「」」」 「「」」 「「」 「 」 「 」 「 」 「 」
2月11日	伏見宮新御所治仁王、急死する(37歳)。貞成「大中風」と記す。
2月12日	治仁王御荼毘の事、大光明寺は大通院の仏事と重なるので蔵光庵沙汰と 評定。治仁王薨去の事は幕府には戦勝祝賀の時期を配慮して、知らせな いことにする。長資は内裏小番で三十日間在京のため籠居できず。
2月13日	治仁王茶毘の件、大光明寺も蔵光庵主も故障申し辞退、貞成嘆く。戒師 指月坊主廓首座が髪剃り授戒。位牌に称号は師絶海中津が書道号「松屋 」と認める。公行より大原野祭の神事のため弔問できない旨の状あり。
2月14日	御茶毘の件、大光明寺が今回は特例という状を出し、蔵光庵茶毘を了承 する。
2月15日	茶毘は陰陽師賀茂在弘の勘進は戌時。夜に密かに遺体搬出。蔵光庵(屋外)にて龕前仏事、山作所で荼毘にふす。荼毘の際、大光明寺僧侶諷経を止める。代々の檀那寺の態度、遺恨を残すかと貞成記述する。
2月16日	大光明寺長老、「帰寺まで治仁の事知らず」とする。実は深草辺で待つ。
2月17日	貞成、御収骨の日なるも雨天にて仏事無し。故治仁王の陪妾今上臈女子を出産する。治仁王には男子相続人無く貞成が伏見宮御遺跡を相続することになる。貞成、伏見宮新主として鹿苑院主の弟子となるよう助言される。
2月18日	治仁初七日。特に仏事は行わず。治仁頓死に付、貞成を疑う噂ありと聞 く。
2月19日	真成の連枝周乾・洪蔭各々の寺へ帰る。連枝椎野、疱瘡の病中なるも入 御。
2月20日	住心院僧正、山伏を使いとして弔問する。
2月21日	治仁頓死に付、世間では雷神奪命説と貞成・対御方共謀毒殺説の二種の噂あり。貞成、毒殺説流布は当所地下の野心ある近臣の仕業と記す。賀茂在弘、忌中明け日時を鹿苑院授衣は来る十五日とす。
2月22日	相応院殿、使いをもって弔問する。楊梅兼邦・園前宰相等も参る。
2月23日	故治仁王二七日仏事。来る廿九日の大通院百ケ日法要に向け今日から三 時勤行。石見郷代官(法輪寺)より大通院供養として五百疋。鹿苑院主 より御受衣の件了解あり、但し室町殿の同意が必要との返事あり。
2月25日	水無瀬三位入道(法覚)が子息を弔問に遣わす。
2月26日	故治仁三七日の仏事を引き上げて行う。

年·月·日	記事の要旨
2月27日	貞成、蔵光庵に念誦布施として本尊釈迦像・香箱・香台を遣わす。また
2月28日	同庵の僧衆にも御茶毘の布施を遣わす。 大通院百ケ日追善の施餓鬼あり。
2月29日	大通院百ケ日正忌の仏事終わり、位牌を常御所に安置する。
2月30日	故四七日の仏事を引き上げて行う。
3月 1日	前宰相綾小路信俊、遺跡・受衣の事催促の為に鹿苑院へ向かう。
3月 3日	桃花の節句の宴あり。
3月 4日	故治仁王五七日の仏事を引き上げて行う。御受衣の件は将軍義持の伊勢 ・八幡参詣の後に披露とのこと。伏見宮御遺跡相続・虚名(貞成毒殺首 謀説)弁明の件で後小松院に使いを派遣する。
3月 5日	貞成に係る治仁殺害の噂(虚名)につき、院は疑惑を持たずとの返事。(間)関東公方・諸大名から合戦(上杉禅秀の乱)合力のお礼に進物が届くとのこと。
3月 9日	故治仁六七日の仏事を引き上げて行う。
3月10日	(聞)室町殿(将軍足利持氏)、石清水八幡宮へ参詣。
3月11日	貞成、遺跡相続・虚名解消の祈祷の為青侍を北野社へ派遣する。
3月12日	故治仁の位牌称号「葆光院大範街公禅定尊」と治定する。
3月13日	大光明寺へ葆光院の遺骨を納める。
3月14日	明日は葆光院御中陰につき早朝から写経。夕方には道場の室礼をする。
3月15日	葆光院盡七の儀あり、無事中陰結願する。大光明寺でも形通り執行され る。
3月16日	貞成、風呂に入り、夜は前宰相綾小路信俊と閑談する。
3月17日	貞成、四弦伝授の件で院へ申し入れたところ、返事保留。秘曲御奥書を 遣わす。また、源宰相(綾小路信俊)に大通院遺物の神楽笛・葆光院の 現を与える。
3月20日	貞成、葆光院陪妾今上臈と姫宮(2/17日誕生)に初めて対面する。
3月21日	遺跡の件、院より許諾あり、御文をもって申込むべしとの勅定。虚名の 件については以後御前にて口遊せぬように仰せられた。
3月22日	貞成、御手本櫃(新古梵字)を開き目録と校合し中に重有の所持本あり 返却。三位以下、行蔵庵での花見会に行き、その後乗船魚釣りを楽しむ 。貞成は不参加。
3月23日	三品が鯉を持参したので賞翫する。門前の馬場で花見。
3月24日	遺跡の件将軍の了解を得る事、鹿苑院に受衣の件で使いを派遣する。貞成、使いに硯箱と「近思録」五巻を遣わす。賽を打つ。除目初め。*「世間流布事」。
3月26日	貞成、御所旧跡に遊び、不動堂遠見の所で酒宴。鹿苑院より安堵の件で 返事あり。朗詠・乱舞など楽しむ。除目入眼。
3月27日	葆光院の遺品の中に貞成を猶子として扶助する旨の大通院の文書あり。
3月28日	長資に妙音天絵像一幅を与える。後小松院、体調を崩すとのこと。
3月29日	葆光院盡七の儀、精進看経。大通院の御産常御所(終焉場所)の板敷を 清浄のため鉤をかける。二日の大般若経転読のために道場を洗浄。(聞) 後小松院の体調やや回復。端午の続命縷の時節可否を将軍に伺い許可を もらう。
4月 1日	朔日。
4月 2日	葆光院盡七の供養祈祷として大般若経転読あり。貞成、次第を記す。後 小松院御悩により泰山府君祭を土御門泰家宿所で行う。*文保元年七月 十七日前例
4月 3日	貞成、梨花の筝(甲部は花梨木、破損甚)を仙洞へ進めることを決める。
4月 4日	貞成、前宰相の去二日の諌めを受け、楽・朗詠の稽古をする。
4月 5日	貞成、仙洞へ書状と梨箏を遣わす。貞栄、大光明寺の当所管領分に付、 大通院(故栄仁親王)置文に書き加えて遣わす。
4月 6日	後伏見院聖忌の仏事法事潜事(三福寺当番)に供養料を下行する。

4月 7日	年·月·日	記事の要旨
4月 8日		
4月18日 前日の返歌(子)につき芳徳庵よりまた返歌。 4月12日 早朝より楽有り。昼にも楽有り。 宰相稽古。 盃酌源宰相申沙汰。 4月12日 早朝より楽有り。昼にも楽有り。 宰相稽古。 盃酌源宰相申沙汰。 4月13日 農原郷秋参り、楽有り。 前(瀬)宰相楊乙。 4月14日 先月治仁死去により延期の御香宮猿楽あり。楽頭丹波猿楽大法師。 4月15日 結夏精進、今日から三日間泊瀬(長谷)に立願のこと。昨日同様、御香宮猿楽あり。河原院御堂焼失する。近年この聖天の霊験あり、人々群参する。 4月17日 岩夏林との後に楽あり、妙音天に奉ず名。 4月17日 温とに入る。晩に楽あり、妙音天に奉ず名。 4月19日 風呂に入る。晩に楽あり、妙音天に奉ず宮。 4月28日 完極いとして魔苑院、遣むっ、鹿苑院、将軍に受衣の件披露のところ問題無しとの返事。安楽光院にて御経供養あり。乾蔵主、高野山に参詣と実に治・治・郷村との事。 が泉前大納言為尹息為之、後小松院・大光明寺預託文書櫃を取り寄せ、将軍への進物遷定。 石帯・御手本 4月29日 貞成、将軍への進物をして石帯が適当か菊第左府に指南を乞う 推り2日 貴成、庵苑院、徐道供養)今日か始まる。 大光明寺預託文書櫃を取り寄せる。 東本 6 後別として石帯が適当か菊第左府に指南を乞う 1月1日 明日。 5月1日 明日。 「東苑院、伊軍への進物を持たせて派遣する。 (間) 等持寺八譜・儀蓋徳仕養) 今日か始まる。 「後光学院御文類」 21号 5月 3日 『成、庵花院へ使いから戻る。院主は進物を明日将軍に見参に入るとの事より代見宮、産産・佐田・田・野・野・野・野・野・野・野・野・野・野・野・野・野・野・野・野・野・	4月 8日	
4月12日 前、(源) 宰相が院(後小松)の返事(御筝受領の由)を持参。夜、楽あり。4月12日 早朝より楽有り。昼にも楽有り。宰相稽古。盃酌源宰相申沙汰。4月13日 豊原郷秋参り、楽有り。前(源)宰相帰る。 楽頭丹波猿楽大法師。4月14日 先月治仁死去により延期の御香宮猿楽あり。楽頭丹波猿楽大法師。着夏精進。今日から三日間南瀬(長谷)に立願のこと。昨日同穣、御香宮猿楽あり。河原院御堂焼失する。近年この聖天の霊験あり、人々群参する。 四度 大の重視 一個	4月 9日	前日の返歌(予)につき芳徳庵よりまた返歌。
4月12日 早朝より楽有り。昼にも楽有り。宰相稽古。盃酌源宰相申沙汰。 4月13日 豊原郷秋参り、薬有り。前(源)宰相帰る。 4月14日 先月殆仁死去により延期の御香宮猿楽あり。楽頭丹波猿楽大法師。 4月15日 結夏精進。今日から三日間沿瀬(長谷)に立顧のこと。昨日同様、御香宮猿楽あり。河原院御堂焼失する。近年この聖天の霊験あり、人々群参する。から、東侍は中山中納言息な。推野より琵琶「孔雀」を取り寄せるも散々に破損。今夜玄剣、京都大角町焼亡。 4月17日 賀凌祭あり、典侍は中山中納言息な。推野より琵琶「孔雀」を取り寄せるも散々に破損。今夜玄剣、京都大角町焼亡。 4月19日 風呂に入る。晩に楽あり、妙青天に奉ずる。 4月22日 二位を使いとして鹿苑院へ遭わす。専首座(比丘尼)参り、栄仁の遺品を一つ鳴う。 4月23日 美あり。長倉相伴する。使の三位帰る。鹿苑院、将軍に受衣の件披露の上ころ間を開いま年忌の為、安楽光院にて御経供養あり。乾蔵主、高野山に参詣し栄仁・治仁遺骨を納骨との事。冷泉前大納言為尹息為之、後小松院に初参。 4月27日 東あり。景清・郷秋・敦秋参る。三位不参。 4月28日 大光明寺寛託文書館を取り寄せ、高当外瀬彦左府に指南を乞う4月30日 推野より琵琶を取り寄せる。又散々に破損していた。 5月1日 朔日。 5月2日 貞成、廃苑院へ使しい(三位)に将軍への進物を持たせて派遣する。(間)等持寺八溝(義満供養)今日から始まる。*「後崇光院御文類」19号5月3日 三位、鹿苑院への使いから戻る。院主は進物を明日将軍に見参に入るとの事。自成、鹿苑院への使いから戻る。院主は進物を明日将軍に見参に入るとの事が持事人溝に経備中守任官を所望し補任さる(山名の力か)。 5月6月1日 戸成、序流の遺の資の資ので、大路の時、東衛に、海路、大路の件、大路に関き記す。 5月11日 虚成院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月16日 資持寺八溝結顧する。 5月17日 虎に安一座頭(千一座頭の高々)参り、平家を申す。 5月18日 東るニ十二日は葆光院百ケ月でごき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事車が太不可に奉行を確状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月18日 東をニ十二日は葆光院百ケ月につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事車が大本では上り楽でによる、大郷寺に御所預日を産業院に事始まり御時結番を定める。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より復光院正徳地を持わから、平家を申す。 5月22日 茂原百ケ日の後楽、貞成の今で退出の安一に琵琶弦、茶羅条等を与える、大光明寺に御所預日を産光院吉松料所として寄行う。	4月11日	前(源)宰相が院(後小松)の返事(御箏受領の由)を持参。夜、楽あ
4月14日 先月治仁死去により延期の御香宮猿薬あり。楽頭丹波猿楽大法師。 4月15日 結夏精進。今日から三日間泊瀬(長谷)に立願のこと。昨日同様、御香宮猿楽あり。河原院理焼失する。近年この聖天の霊験あり、人々群参する。 近年この聖天の霊験あり、人々群参する。 近年にの聖天の霊験あり、人々群参する。 近年にの聖天の霊験あり、人々群参する。 近年にの聖天の霊験あり、人々群参する。 近年にの聖天の霊験あり、人々群参する。 近年にの聖天の霊験あり、人々群参する。 世紀大区ででは、今後変刻、京都六角町焼亡。 4月19日 風呂に入る。晩に薬あり、妙音天に奉ずる。 4月22日 三位を使いとして鹿苑院へ遣わす。 専首座(比丘尼)参り、栄仁の遺品を一つ賜う。 6月4日との返事。 佐の三位帰る。鹿苑院、将軍に受衣の件披露のところ問題無しとの返事。 余泉前大納言為尹息為之、後小松院に初参。 大子の神寺預託文華を納骨との事。冷泉前大納言為尹息為之、後小松院に初参。 大子の一種を動き、音楽光院にて御秘健、養部し光仁・治仁遺骨を納骨との事。 冷泉前大納言為尹息為之、後小松院に初参」 大野明寺預託文華を取り寄せ、将軍への進物選定。石帯・御手本4月29日 良成、押軍への進物として石帯が適当か瀬弟左府に指南を乞う4月30日 推野より遅琶を取り寄せ、宮本の海を持たせて派遣する。 (間)等持寺八諸、義満供養)今日から始まる。*「後崇光院御文類」21号5月3日 一位、鹿苑院への使いから戻る。「憲主は進物を明日将軍に見参に入るとの事。 貞成、原苑院への使いから戻る。「憲主は進物を明日将軍に見参に入るとの事、「中村軍がより侯軍拳る」 富満で軒を葺着瀬と、北等届よりに、東本に上したの書、法の情に、本等の件、大治する(菖蒲湯か)。 5月6日 等持寺八諸結顧する。 (日)の書がる、は、大谷する(菖蒲湯か)。 5月11日 一度地院から「三位に明日来るように」との書状あり。 第4年の節会。 貞成、大治する(菖蒲湯か)。 5月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、括磨国衛の件を報告、日月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、括磨国衛の件を報告、日月12日 三位、鹿苑院古り日につきに単沙なを仰せ付ける。 7月16日 寿蔵主、百万日に事を行後を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月12日 安楽院長者が参る。今夜より彦光院仏事始まり御時結番を定める。 万月20日 安楽院長者が参る。今夜より彦光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安楽院との郷の、真成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える、大光明寺に御所預日を後光院若見料所として寄付する。 5月24日 埋藤講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行する。 5月24日 埋藤講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行する。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(伽河神で)へ催促の為に三位を使いとして派遣す	4月12日	
# 15日	4月13日	
宮茂楽あり。河原院御堂焼失する。近年この聖天の霊験あり、人々群参する。 4月17日 賀茂祭あり、典侍は中山中納言息女。椎野より琵琶「孔雀」を取り寄せるも散々に破損。今夜変刻、京都大角町焼亡。 周呂に入る。晩に楽あり、妙音天に奉ずる。 日本の場う。 日本の場う。 日本の場う。 日本の場う。 日本の場う。 日本の場う。 日本の場方。 日本の場所に、将軍に受衣の件披露のところ問題無しとの返事。 日本の場所に、日本の場所に、日本の場所に、日本の場所に、日本の場所に、日本の場所に、日本の場所に、日本の場所に、日本の場所に、日本の場所に、日本の場所に、日本の場所に、日本の場所に、日本の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地の地		
4月17日	4月15日	宮猿楽あり。河原院御堂焼失する。近年この聖天の霊験あり、人々群参
4月19日 風呂に入る。晚に楽あり、妙音天に奉ずる。 4月22日 三位をいとして鹿苑院へ遭わす。専首座(比丘尼)参り、栄仁の遺品を一つ賜う。 来あり、長資相伴する。使の三位帰る。鹿苑院、将軍に受衣の作披露のとこの間無出しとの返事。 後園廳院廿五年忌の為、安楽光院にて御経供養あり。乾蔵主、高野山に添詣し業に、初参詣し業仁・治仁遺骨を納骨との事。冷泉前大納言為尹息為之、後小松院に初参。 東あり。景清・郷秋・牧秋参る。三位不参。 4月27日 楽あり。景清・郷秋・牧秋参る。三位不参。 4月28日 大光明寺預託文書櫃を取り寄せ、将軍への進物選定。石帯・御手本4月29日 貞成、将軍への進物として石帯が適当か菊第左府に指南を乞う推野より電前といた。 5月1日 朔日。 5月2日 貞成、鹿苑院へ便い(三位)に将軍への進物を持たせて派遣する。(間)等持寺八講(義満供養)今日から始まる。*「後崇光院御文類」21号5月3日 三位、鹿苑院への使いから戻る。院主は徳物を明日将軍に見参に入るとの事。り伏見宮へ桧皮葺参る。院主は徳物を明日将軍に見参に入るとの事。り伏見宮へを内書をある。院主は徳物を明日将軍に見参に入るとの事。り大見宮へ松皮葺斎根・枕等届く。禅啓、法体でありながら備中守任官を所望し補任さる(山名の力か)。 5月5日 毎年の節会。貞成、八谷する(菖蒲湯か)。 5月1日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月1日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月1日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月1日 東苑にから「三位に明日来るように」との書状あり。 5月1日 東苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月1日 東苑院から「三位に明日来るように」との書があり。第十二日は東光院百ヶ日につき仏事の仲、播磨国衙の件を報告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 東本三十二日は東光院百ヶ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿職主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ヶ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より東光院仏事始まり御時結番を定める。5月21日 安舎る。道場で平家等を申す。	4月17日	賀茂祭あり、典侍は中山中納言息女。椎野より琵琶「孔雀」を取り寄せ
を一つ賜う。 4月23日 薬あり。長寶相伴する。使の三位帰る。鹿苑院、将軍に受衣の件披露の ところ問題無しとの返事。 4月26日 後圓融院廿五年忌の為、安楽光院にて御経供養あり。乾蔵主、高野山に 参詣し栄仁・治仁遺骨を納骨との事。冷泉前大納言為尹息為之、後小松 院に初参。 4月27日 薬あり。景清・郷秋・敦秋参る。三位不参。 4月28日 大光明寺預託文書櫃を取り寄せ、将軍への進物選定。石帯・御手本 4月29日 貞成、将軍への進物として石帯が適当か菊弟左府に指南を乞う 4月30日 椎野より琵琶を取り寄せる。又散々に破損していた。 5月1日 朔日。 5月1日 朔日。 5月2日 貞成、鹿苑院へ使い(三位)に将軍への進物を持たせて派遣する。(間) 等持寺八講(義満供養)今日から始まる。*「後崇光院御文類」21号 5月3日 早朝より伏見宮へ栓皮膏多る。院主は進物を明日将軍に見参に入ると の事。 貞成、将軍へ薬玉を進呈する。備主は進物を明日将軍に見参に入ると の事。 貞成、将軍へ薬玉を進呈する。 萬蒲で軒を膏清根・枕等届く。 禅啓、法 体でありながら備中守任官を所望し補任さる(山名の力か)。 5月5日 い場にから「三位に明日来るように」との書状あり。 5月6日 等持寺八講結顧する。 5月12日 直成院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月12日 東苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の第子)参り、平家を申す。 5月16日 東るこ十二日は葆光院百ケ月につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診 断で仏事中沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ月につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診 断で仏事中沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 安薬院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月20日 安薬院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百大田の塩車歌を行う。 5月22日 葆光院百十四仏事。貞成、今日で退田の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与 える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として派遣す	4月19日	風呂に入る。晩に楽あり、妙音天に奉ずる。
ところ問題無しとの返事。 4月26日 後圓融院廿五年忌の為、安楽光院にて御経供養あり。乾蔵主、高野山に参詣し栄仁・治仁遺骨を納骨との事。冷泉前大納言為尹息為之、後小松院に初参。 4月27日 案あり。景清・郷秋・敦秋参る。三位不参。 4月28日 大光明寺預託文書櫃を取り寄せ、将軍への進物選定。石帯・御手本4月29日 貞成、将軍への進物として石帯が適当か頻第左府に指南を乞う4月30日 椎野より琵琶を取り寄せる。又散々に破損していた。 5月1日 朔日。 5月2日 貞成、鹿苑院へ使い(三位)に将軍への進物を持たせて派遣する。(間)等持寺人講(義債機養)今日から始まる。*「後崇光院御文類」21号5月3日 三位、鹿苑院への使いから戻る。院主は進物を明日将軍に見参に入るとの事。 5月4日 早朝より伏見宮へ会皮葺参る。菖蒲で軒を葺く。貞成感慨ありて歌二首。貞成、将軍へ変薬を進呈する。菊呈より菖蒲根・枕等届く。禅啓、法体でありながら備中守任官を所望し補任さる(山名の力か)。 5月5日 第午方川講話願する。 5月6日 第持寺八講話願する。 5月1日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月1日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月12日 定位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、審磨国衙の件を報告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(ドー座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「木癰」との診断で仏事申沙法不可に付、寿蔵主に申沙法を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院善提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての遺脈を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す	4月22日	を一つ賜う。
### 4月26日 後園融院廿五年忌の為、安楽光院にて御経供養あり。乾蔵主、高野山に参詣し栄仁・治仁遺骨を納骨との事。冷泉前大納言為尹息為之、後小松院に初参。 #### 4月28日		ところ問題無しとの返事。
4月27日 楽あり。景清・郷秋・敦秋参る。三位不参。 4月28日 大光明寺預託文書櫃を取り寄せ、将軍への進物選定。石帯・御手本 4月29日 貞成、将軍への進物として石帯が適当か菊弟左府に指南を乞う 4月30日 推野より琵琶を取り寄せる。又散々に破損していた。 5月1日 朔日。 5月2日 貞成、鹿苑院へ使い(三位)に将軍への進物を持たせて派遣する。(開)等持寺八講(義満供養)今日から始まる。*「後崇光院御文類」21号 5月3日 三位、鹿苑院への使いから戻る。院主は進物を明日将軍に見参に入るとの事。 「中朝より伏見宮へ桧皮葺参る。菖蒲で軒を葺く。貞成感慨ありて歌二首。貞成、将軍へ薬玉を進呈する。菊呈より菖蒲根・枕等届く。禅啓、法体でありながら備中守任官を所望し補任さる(山名の力か)。 5月5日 第十の節会。貞成、入浴する(菖蒲湯か)。 5月6日 等持寺八講結願する。 5月11日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月11日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 東る二十二日は廃光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月2日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院ム事始まり御時結番を定める。 5月2日 安本参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院苦提料所として寄付する。 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)〜催促の為に三位を使いとして派遣す	4月26日	後圓融院廿五年忌の為、安楽光院にて御経供養あり。乾蔵主、高野山に 参詣し栄仁・治仁遺骨を納骨との事。冷泉前大納言為尹息為之、後小松
4月29日 貞成、将軍への進物として石帯が適当か菊弟左府に指南を乞う 4月30日 椎野より琵琶を取り寄せる。又散々に破損していた。 5月1日 朔日。 5月2日 貞成、廃苑院へ使い(三位)に将軍への進物を持たせて派遣する。(間) 等持寺八講(義満供養) 今日から始まる。*「後崇光院御文類」21号 三位、鹿苑院への使いから戻る。院主は進物を明日将軍に見参に入るとの事。 早朝より伏見宮へ桧皮葺参る。菖蒲で軒を葺く。貞成感慨ありて歌二首。貞成、将軍へ薬玉を進皇する。菊皇より菖蒲根・枕等届く。禅啓、法体でありながら備中守任官を所望し補任さる(山名の力か)。 5月5日 端午の節会。貞成、入谷する(菖蒲湯か)。 5月6日 等持寺八講結願する。 貞成、一条辺で酒屋下女が、古狸が化けた犬に追われる話を聞き記す。 5月11日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 東る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「木癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月2日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月2日 安米院百ケ日の(本)。 東成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院苦提料所として寄付する。 1月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す	4月27日	
#野より琵琶を取り寄せる。又散々に破損していた。 5月 1日 朔日。 朔日。	4月28日	大光明寺預託文書櫃を取り寄せ、将軍への進物選定。石帯・御手本
5月 1日 朔日。 5月 2日 貞成、鹿苑院へ使い(三位)に将軍への進物を持たせて派遣する。(聞) 等持寺八講(義満供養)今日から始まる。*「後崇光院御文類」21号 5月 3日 三位、鹿苑院への使いから戻る。院主は進物を明日将軍に見参に入るとの事。 卓成、将軍へ薬玉を進呈する。菊呈より菖蒲根・枕等届く。禅啓、法体でありながら備中守任官を所望し補任さる(山名の力か)。 5月 5日 端午の節会。貞成、入浴する(菖蒲湯か)。 5月 6日 等持寺八講結願する。 5月 8日 貞成、一条辺で酒屋下女が、古狸が化けた犬に追われる話を聞き記す。 5月 11日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月 12日 鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月 16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月 17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月 18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月 19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月 20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月 21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月 22日 安北院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月 24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月 25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す	4月29日	貞成、将軍への進物として石帯が適当か菊弟左府に指南を乞う
5月 2日 貞成、鹿苑院へ使い(三位)に将軍への進物を持たせて派遣する。(聞) 等持寺八講(義満供養) 今日から始まる。*「後崇光院御文類」21号 5月 3日 三位、鹿苑院への使いから戻る。院主は進物を明日将軍に見参に入るとの事。 早朝より伏見宮へ桧皮葺参る。菖蒲で軒を葺く。貞成感慨ありて歌二首。貞成、将軍へ薬玉を進呈する。菊呈より菖蒲根・枕等届く。禅啓、法体でありながら備中守任官を所望し補任さる(山名の力か)。 5月 5日 端午の節会。貞成、入浴する(菖蒲湯か)。 5月 6日 等持寺八講結願する。 5月 8日 貞成、一条辺で酒屋下女が、古狸が化けた犬に追われる話を聞き記す。 5月 11日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月 12日 鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月 16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月 17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月 18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月 19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月 20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月 21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月 22日 安土院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月 24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月 25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す	4月30日	椎野より琵琶を取り寄せる。又散々に破損していた。
等持寺八講 (義満供養) 今日から始まる。*「後崇光院御文類」21号 5月 3日 三位、鹿苑院への使いから戻る。院主は進物を明日将軍に見参に入るとの事。 5月 4日 早朝より伏見宮へ桧皮葺参る。菖蒲で軒を葺く。貞成感慨ありて歌二首。貞成、将軍へ薬玉を進呈する。菊呈より菖蒲根・枕等届く。禅啓、法体でありながら備中守任官を所望し補任さる(山名の力か)。 5月 5日 端午の節会。貞成、入浴する(菖蒲湯か)。 5月 6日 等持寺八講結願する。 5月 8日 貞成、一条辺で酒屋下女が、古狸が化けた犬に追われる話を聞き記す。 5月11日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		
 5月 3日 三位、鹿苑院への使いから戻る。院主は進物を明日将軍に見参に入るとの事。 5月 4日 早朝より伏見宮へ桧皮葺参る。菖蒲で軒を葺く。貞成感慨ありて歌二首。貞成、将軍へ薬玉を進呈する。菊呈より菖蒲根・枕等届く。禅啓、法体でありながら備中守任官を所望し補任さる(山名の力か)。 5月 5日 端午の節会。貞成、入浴する(菖蒲湯か)。 5月 6日 等持寺八講結願する。 5月 8日 貞成、一条辺で酒屋下女が、古狸が化けた犬に追われる話を聞き記す。 5月11日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次) 〜催促の為に三位を使いとして派遣す 	5月 2日	等持寺八講(義満供養)今日から始まる。*「後崇光院御文類」21号
。貞成、将軍へ薬玉を進呈する。菊呈より菖蒲根・枕等届く。禅啓、法体でありながら備中守任官を所望し補任さる(山名の力か)。 5月 5日 端午の節会。貞成、入浴する(菖蒲湯か)。 5月 6日 等持寺八講結願する。 5月 8日 貞成、一条辺で酒屋下女が、古狸が化けた犬に追われる話を聞き記す。 5月11日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		三位、鹿苑院への使いから戻る。院主は進物を明日将軍に見参に入ると の事。
5月 6日 等持寺八講結願する。 5月 8日 貞成、一条辺で酒屋下女が、古狸が化けた犬に追われる話を聞き記す。 5月11日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		「貞成、将軍へ薬玉を准呈する、菊呈より菖蒲根・枕等届く。禅啓、法
5月 8日 貞成、一条辺で酒屋下女が、古狸が化けた犬に追われる話を聞き記す。 5月11日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		
5月11日 鹿苑院から「三位に明日来るように」との書状あり。 5月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		
5月12日 三位、鹿苑院より戻り将軍への進物の件、安堵の件、播磨国衙の件を報告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		
告。 5月16日 貞成、持斎する。伏見宮の面々、双六に興じる。 5月17日 伏見宮に安一座頭(千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		
5月17日 伏見宮に安一座頭 (千一座頭の弟子)参り、平家を申す。 5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		<u></u> 上
5月18日 来る二十二日は葆光院百ケ日につき仏事の準備。近衛局「水癰」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		
断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。 5月19日 寿蔵主、百ケ日仏事奉行役を領状する。安一(座頭)参り平家を申す。 5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与 える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		
5月20日 安楽院長老が参る。今夜より葆光院仏事始まり御時結番を定める。 5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		米る二十二日は保光院白ケ日につき仏事の準備。近衛局「水攤」との診断で仏事申沙汰不可に付、寿蔵主に申沙汰を仰せ付ける。
5月21日 安一参る。道場で平家等を申す。 5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与 える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		
5月22日 葆光院百ケ日の仏事。貞成、今日で退出の安一に琵琶弦、茶羅茶等を与 える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す		
える。大光明寺に御所預田を葆光院菩提料所として寄付する。 5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す	L.	
5月24日 地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。 5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す	9月44日	株儿
5月25日 貞成、鹿苑院と広橋(仙洞申次)へ催促の為に三位を使いとして派遣す	5月24日	地蔵講あり。その後、貞成の代で初めての連歌を行う。
	5月25日	

年·月·日	記事の要旨
5月26日	昨日、一座百韻(連歌)を終える。
5月27日	豊原郷秋参り楽あり。三位使いから戻る、安堵の件いまだ執奏なしとの 事。将軍義持、二十日より北野社へ参籠。
5月29日	豊原郷秋参り、楽あり。
閏5月 1日	朔日。三位宿所に厩を造作。
閏5月 2日	貞成、宇治川(月見岡下)に白龍現れ草刈の小童を巻き上げるとの噂を 記す。豊原郷秋参り楽・朗詠あり。
閏5月 3日	玉櫛禅門借りていた「半尸記」を返却の由、二条持基が甲し出る。
閏5月 4日	仙洞より御所到来。内容は梨箏の礼、文永三年十一月御移徙御記の書写 依頼。
閏5月 5日	貞成、即成院に預置の櫃を取り寄せ後深草院御移徙御記を選出し書写する。去る二日、真修院(崇光院仕女、相応院や入江殿今御所等の生母) 寂す。
閏5月 6日	後深草院御記一巻の書写出来、仙洞へ進呈する。他の部類記も併せて申 出る。琵琶(仙洞)修理のため菊亭へ遣わす。
閏5月 7日	仙洞より御書にて部類記の依頼あり、御移徙部類記・御次第を進呈する。
閏5月 8日	貞成、指月庵に行き大光明寺長老と乾蔵主の前燈禄談義を聴聞する。
閏5月 9日	貞成、伏見地下輩の流行病退散祈祷の為、法安寺良明房に仁王講を読ま しむ。伏見宮にて男女が賽を打つ。
閏5月13日	(聞)十種香を懸物にて闘わす。椎野が盃酌を張行したとの事。
閏5月14日	伏見宮臺所にて毎年恒例の雲脚茶会(順事)を始める。御所旧跡の石を 退蔵庵が引き取る、但し瀧頭石は引き取りを許可せず。
閏5月16日	台所順事茶、行蔵庵で行う。後聞、茶順事ではなく寿蔵主の別の張行。 貞成、大光明寺へ御記以下の櫃十二合を預ける。
閏5月17日	貞成、昼頃から病悩、瘧病を疑う。十五日にも「違例之気」あり。
閏5月18日	貞成、未明より瘧病発作あり、その後治まる。
閏5月19日	貞成、法安寺良明房瘧病加持をさせ、弘法太子御筆の濯水を飲む。
閏5月20日	貞成、退蔵庵僧が瘧病を算で落とすというので年齢・発病日を書き遣わ す。
閏5月21日	明け方に良明房参り加持。退蔵庵僧も算を行うとの事。昼再発、夕方醒める。
閏5月23日	良明房参り加持する。今日は発作なし、加持のおかげか算の効験か。
閏5月25日	貞成、入浴する。体調違例回復する。
閏5月26日	(聞)北大路辺で強盗騒動ありとの事。
閏5月27日	夜前、即成院に強盗数十人が入り衣装具足等奪い取る。預置の記録櫃は 無事。近衛局の腫れ物平癒する。医師(大光明寺僧)に禄を賜る。御茶 順事、御所様頭役に付、召さる。
閏5月28日	将軍義持、後小松院仙洞へ参る。御茶順事、御所様頭役に付、召さる。
6月 1日	貞成、早朝に愛染王堂に参詣、その後船遊びする。船上で云捨の歌会等 あり。
6月 2日	即成院強盗事件で伏見庄地下一庄、殿原・寺庵人供行者・土民等すべて 御香宮の宝前で起請文を書かせる。
6月 3日	貞成、体調良く楽・朗詠等催し酒宴。
6月 4日	早朝より楽あり。秘蔵の名笛(「王餘魚」)を綾小路信俊に貸与する。
6月 5日	早朝より楽あり。台所順事茶満散する。
6月 6日	楽あり。(聞)後小松院、新造仙洞御所へ来十九日に遷幸との事。よって 今夜より妙法院宮(尭仁法親王)が鎮宅法を行うとのこと。 祇園会始まる。関東使節がこれを見物したという事。田向長資、鎮宅法
6月 7日	の指燭役として出仕する。
6月 8日	今出川宰相中将公富、中納言に昇進との事(6/7付)。
6月 9日	貞成、菊亭へ公富昇進の祝儀を贈る。長資鎮宅法の指燭役に布衣で出仕。
6月10日	長資戻って、鎮宅法の儀の様子(指燭役は殿上人六人等)を語る。

年·月·日	記事の要旨
6月11日	香臺寺の風呂に入浴する。これ大通院の代に年一度恒例のもので当代初
0)111 🛱	めて。今出川公行より、公富中納言拝任に付、仙洞御移徙の供奉勅許あ
	┃りとの状あり。*文永三年の西園寺供奉の例。
6月12日	三位、御酒海苔等持参し御前舟水に入れる。これ恒例なり。
6月13日	即成院強盗の件で、三木三郎舎弟次郎が三郎の仕業と白状する。
6月14日	船水納涼の順事あり。強盗事件の嫌疑に付、三木善理無関係と主張する。
6月15日	強盗事件で白状人次郎を侍所へ召還する。三木善理は明日に延期。
6月16日	強盗事件の容疑者有慶・次郎、侍所(一色)へ出頭、三郎は出頭せず。
	三木善理以下、松原無垢庵に集結との報あり、召し捕らえるべしとの評
	定。貞成、三木三郎は畠山被官人である点をを配慮して穏便な処置を希
6月17日	望。 三木三郎等出奔。沙汰人等、関係住宅を焼却するも善理宅は猶予する。
6月18日	善理管領の無垢庵、検断放火は免れ闕所として即成院(被害者)へ寄進
0月10日	
	搬送で穢れたので大工に取り替えさせる。
6月19日	「後小松院、新造仙洞御所(東洞院)へ御移徙御幸あり。供奉人散状は別」
	記す。水火童・黄牛等あり。文永三年十一月の富小路御移徙の先例を略
	襲する。
6月20日	恵舜蔵主(大通院宮)寂す。触穢を恐れ没所寶厳院塔頭から密かに遺体 搬出。畠山、三木善理の処分に対して立腹とのこと。
6月21日	一般山。
6月23日	貞成、仙洞へ御移徙無為を賀す状を送る。将軍へも同じく送る。(聞)今
07120 Д	夜仙洞にて仁王講が行われるとのこと。
6月24日	貞成、三木闕所の半分を三位へ与える。
6月25日	貞成、三木闕所の内、一部を蔵光庵に寄進する。
6月26日	先日の即成院事件のことで富樫兵部大輔(侍所)へ三位を派遣。三条公
	雅、伏見宮へ参る。恵舜(貞成連枝、公雅の養君)弔問のためとか。
6月27日	三位、富樫(侍所所司代)より戻る。盗人闕所の件将軍に披露するとの 返事。
6月28日	点形。 貞成、三木闕所の一部を慶寿丸へ安堵する。
6月29日	貞成、三木闕所の内、善理に押領されていた名田を元の地下輩に安堵す
0),120	る。
6月30日	貞成、服暇中の六月祓につき賀茂在弘に尋ね、問題無しということで行
·	う。仙洞より御移徙祝賀の状の返書あり。蔵光庵主闕所寄進の礼に参る
	。今出川公富嫡子(二歳、母は故長頼息女)死去する。*公富息=23.1/ 22生
7月 1日	直成、綾小路信俊に三木闕所下地を与える女房奉書を遣わす。夕方に乾
17, 14	蔵主の招請により山崎超願寺へ行く。
7月 5日	貞成、法安寺へ宸記等の重書の入った文書櫃十七合を預ける。
7月 7日	七夕の梶葉法楽を服暇中により略して行う。新仙洞で御花合あり。
7月 8日	于蘭盆看経、舜蔵主(恵舜)の忌中につき楽無しで行う。仙洞での七夕
	御楽・花合の席上、中院光相が布衣姿での列席事件を記述。
7月12日	豊原郷秋、再度貞成に左府公行の推挙状をもって三木闕所を所望する。
7月13日	陽明局、京へ墳墓参りに行く。寶厳院塔にて施餓鬼あり。
7月15日	蓮供あり。貞成、大光明寺施餓鬼聴聞に行き夜に石井念仏拍物を密かに 見物。
7月16日	兄初。 聞、陰陽師土御門泰家他界する。「権威富貴者也」。
7月19日	明日故南向(今出川公行母)一周忌に付、布施す。左府十五日より三日
./, 20 [病。無垢庵下地田を惣得庵に寄進。(聞)称光天皇廿三日に仙洞御所へ行
	幸、廿八日舞御覧の予定。昌訓小庵跡の井水辺で納涼。正永に昌訓小庵
7 00 0	を安堵。 上四日地本建た引き上げて行う。 古出 海は雉野駅の正切に上り料面割
7月20日	廿四日地蔵講を引き上げて行う。貞成、連枝椎野殿の所望により料所割 分。無垢庵屋敷は行蔵庵に法安寺薬師灯油料は三位に返付を仰せる。今
	万。無功庵屋敖は竹蔵庵に仏女が栗師が描れる二世に起けてけてる。 7 夜、田向で燈爐供養ありとのこと。
	I V T T T T T T T T T T T T T T T T T T

年·月·日	記事の要旨
7月21日	豊原郷秋参り楽あり。長資、三日病重く参加せず。
7月22日	豊原郷秋祗候し楽あり。
7月23日	称光天皇、後小松院新造仙洞御所へ御幸あり。長資病を押して供奉する。
7月24日	廿八日の舞御覧を長資所望するも三位所作の予定に付、許されず。
7月25日	長資舞御覧所望の為、豊原郷秋を師範として万秋楽秘局を伝授する。
7月26日	(聞)将軍義持、院へ参り順御茶事の頭役として申沙汰する。今出川左府 重態。
7月27日	<u>単版。</u> 貞成、院・将軍への八朔の進物、服暇中に付その可否を諸方に尋ねる。
7月28日	仙洞御所にて舞御覧あり。左府病欠、長資は所望すれども許可されず不
	参加。
7月30日 8月 1日	貞成、重有を使者として今出川左府公行の病気を見舞う。 八朔。貞成、進物を将軍・院ほかへ献ずる。
8月 3日	将軍より八朔の進物のお返しが届く。 菊亭 (今出川) より三日憑。
8月 4日	前宰相綾小路信俊参り御憑の進物を献ずる。将軍お返しの小袖を女中に
	分配。
8月 5日	楽あり。長資、舞御覧の勅許が無かったことを恨み笙をさしおくとて不 参加。
8月 6日	秋期彼岸の初日。蔭蔵主参り僧坊田を葆光院に今年から割分する件懇請 する。
8月 7日	楽あり。貞成、蔭蔵主に僧坊田を一期知行すべしとの状を発給する。
8月 8日	綾小路信俊、板輿用材を所領美濃加納郷より取り寄せ、貞成に寄進する。
8月 9日	時正(彼岸)中日。大光明寺長老、鹿苑院への法号催促の書状発行を要 請。
8月11日	善理後任として御香宮神主職に善国(御所侍)が補さるも、善理が神田 を沽却したため神主職の維持継続が経済的に困難なため辞退する。
8月12日	時正(彼岸)結願する。将軍義持、石清水八幡放生会上卿役として下向 する。
8月13日	長資、放生会次将(定役)として八幡へ参る。
8月15日	石清水八幡放生会、将軍義持を上卿役として厳重に執行される。 貞成、 名月を見て連歌一折張行する。
8月17日	名月に付、連歌一座あり。
8月18日	貞成、御所旧跡(伏見)で椎拾いを楽しむ。
8月19日	三位、筑前国住吉本社領家職の件申入れ、貞成より奉書を賜う。
8月21日	貞成、三日病に臥せる左府公行に見舞いとして滋養の魚、鯉・鱸等を遣 わす。
8月22日	
8月23日	椎野殿、寺(光明庵)に帰る。
8月24日	将軍義持、南都へ下向する、しばらく逗留とのこと。御香宮神主職後任の件、善國了承し補任される。
8月25日	退蔵庵主参り、伏見庄下司職半分(広時契約)の安堵奉書を寺家に賜う。
8月26日	貞成、去船順事を沙汰する。侍所所司代より三木善理を来月一日の御香 宮祭礼の神事を勤めるために帰すとのこと。貞成、将軍南都下向中の沙 汰に付、不審感をいだく。*「中央之儀」。
8月27日	貞成、昨日の所司代よりの状に対する返事を三位に届けさせる。
8月28日	貞成、即成院に預置の文書櫃を取り寄せ目録校合する。三木闕所小芹河 小田の下地を名主職の地下輩に宛行うも代官永藤違乱が問題となる。* 紙背145号
9月 1日	南都から鹿苑院の書状あり。御香宮祭礼は三木善理にて神事を行うべし との将軍の仰せを伝える。
9月 3日	夏成、瘧病の発作。将軍義持、南都からの帰途大光明寺に立ち寄る予定 云々。
9月 4日	貞成、鹿苑院と侍所所司代富樫等に目安(処し方)をもって申し入れる。

年·月·日	記事の要旨
9月 5日	貞成の瘧病発作を退蔵庵の僧が秘術により落とす。
9月 6日	三位が鹿苑院・富樫等への使いから戻る。貞成は善理一人を除き他の輩 の帰住は認めない考え。安一座頭、伏見宮へ参り平家雑芸等を申す。
9月 8日	御所門狭小に付、御香宮祭礼の神幸路を田向宿所経由とし、桟敷を設け る。重陽の節句の備え菊に綿を着せる。
9月 9日	重陽の節句。御香宮祭礼、三木善理子息と新補神主善國が同席し供奉する。貞成、今日より百日の間、四弦・音曲・和歌等の稽古を始める。
9月10日	伏見宮に師子舞参る。夜、山田宮で猿楽あり。将軍義持、石清水八幡に 今日より七日間参籠する。
9月11日	法安寺と権現にて猿楽あり。貞成、密かにこれを見物する。将軍より三 木の件に付、善理以外の者の帰住は認めない旨の仰せあり。六条庁(長 講堂)益直参り、播州国衙検注の件で子細を貞成に尋ねる。
9月13日	直成、遊山に出かけ、松原辺で猪口(茸)をとる。名月鑑賞の連歌一折 あり。*「看」巻二紙背 懐紙二
9月14日	播州國衙検注を奉行勧修寺経興に命ずる。楽あるも長資いまだ笙を奏さず。
9月15日	「将軍義持、石清水八幡に参籠する。舞秘曲法楽あり。播州国衙検注の件 、勧修寺経興奉行として承諾する。信州五ケ庄を山科教興が院宣ありと して押領する、よって停止を院に奏する。
9月16日	将軍義持、石清水八幡へ下向とのこと。播州国衙検注の件で奉行勧修寺 経興に令旨を発給する。年預は未補。三木闕所小芹河小田を永藤が違乱 しているので一献料を遣わし停止させる。
9月17日	廿二日に三位・重有・長貨等が伊勢参呂するということで貝成餞別を贈しる。
9月18日	地蔵講あり。参宮の面々廿日より精進屋に入る貞成服暇に付御所に祗候 せず。将軍義持が伊勢参宮。将軍の諸社参籠頻回に付、何の御願かと世 人の風評。
9月20日	正永参るも貞成服暇中に付、御所には入らず直接精進屋(善國家)へ入る。
9月22日	伊勢参宮の面々出発する。貞成所願成就のため代官を派遣する。鹿苑院 主、近所蔵光庵に来たため貞成が伏見宮へ招くも将軍への遠慮か応じず。
9月23日	将軍義持参宮より下向。伏見宮では楽あり。
9月24日	兼ねてからの約束により菊亭(今出川)より松・石を取りに来る。楽あり。
9月25日	貞成、楽・朗詠を稽古する。後深草院・伏見院・崇光院勅書を鑑賞する。
9月26日	楽・朗詠等あり。
9月27日	楽あり、貞成朝夕稽古に励む。
9月28日	早朝より楽あり、貞成稽古に励む。
9月29日	楽稽古あり。将軍義持、真乗院御比丘尼を景愛寺長老に請い入院を強いる。
9月30日	伊勢参宮の面々下向する。地下輩、宇治木幡で坂迎えする。坂迎えの帰路、源幸相(信俊)意識不明に陥り御子の祓いなど様々処置する。
10月 1日	伊勢参宮の面々より土産をもらう。綾小路信俊、病気本復し参る。
10月 2日	伊勢参宮の面々、餞別のお礼に酒宴を沙汰する。播州国衙別納検注分を御恩として労らかる。今日を重賞が執筆する。
10月 3日	伊勢参宮坂迎の還礼を行蔵庵で行う。堂上・地下人同席で座混乱する。
10月 4日	早朝より楽あり。伊勢名物等を少々分与する。
10月 5日	貞成、蔵光庵の紅葉を見物する。一山墨跡(二補)を返却する。後に指 月庵に行く。寿蔵主より伊勢土産をもらう。今夜は亥子。
10月 6日	芝殿が参る。(聞)今日から北野一万部御経が始まる。
10月 8日	夜急に大光明寺長老が参り去春から所望の鹿苑院主の衣鉢法号を持参する。
10月 9日	貞成、大通院一周忌が近いので今日から法華経一部の書写を始める。

年·月·日	記事の要旨
10月10日	貞成、三位を使節とし鹿苑院へ衣鉢法号のお礼に馬(代五百疋)を進呈
	する。三条公雅が伏見院宸筆を所望につき詩歌・仮名源氏詞写本を遣わ
	す。八雲抄を借用願につき貸与。顕注密勘一帖を返却。芝殿以下参宮へ
10月11日	出発。 三位、鹿苑院への使いより戻る。院主留守、よって祐蔵主へ預ける。
10月13日	
10/110 [4	。以前に修理して菊亭(今出川)へ遣わす器。
10月14日	新御所御方と持仏堂を障子で仕切るように室礼する(大工源内次郎担当
)。貞成吉服の時期を以前信俊が尋ねたところ来月中にとのこと、日時
	勘進は追って沙汰。禁裏で廿九日より御笙始め。足利義量、来月元服と のこと。
10月16日	入江殿今御所より法安寺田知行の件で「一円知行」として伏見宮に返還
	要求。貞成、伏見宮分の一町返還要求に多年無沙汰で今になってと迷惑。
10月17日	承仕明盛が室町院領武蔵堀池を後小松院へ直に所望し策動する。同地は
	永圓寺に寄付の他、預所職は勝阿であり、この訴訟は不義の至りである
10月19日	
10月20日	番匠(源内次郎?)を召し、持仏堂の室礼を直させる。回忌法要準備か
1000	?
10月21日	三品、入江殿へ参り法安寺田事に付、伏見宮の意向を伝える。法安寺良 明房、内々に住持職の補任を求め、よって貞成、女房奉書を下付する。
10月22日	左府(今出川公行)御所旧跡の石を所望に付、大石五つを遣わす。仙洞
	祗候の別当局より明盛が院に武蔵堀池の件で御口入申請の動きと報告。
10月23日	貞成、菊亭より石を取りに奉行として来た旧交の御所侍父子と再会。三
	品、入江殿で法安寺田知行証の応永三年法皇発文書を見る。同三月に五 辻教仲・六月に真修院に下付。真修院の文書が後判で「常法」では有利
	が。
10月25日	伏見宮に初雪。真乗寺比丘尼御所が将軍義持の援助で景愛寺へ御入院。
	今日から石清水八幡で三日間法華経奉読。北野社万不部経衆千口参加。
10月26日	将軍の御願。 豊原郷秋、伏見宮に参り楽を行う。
10月27日	豊原郷秋、伏見宮に参り楽の稽古を行う。
10月28日	三品の宿所造営の事始め。敷地は寶厳院管領地。この地は以前大通院よ
,	り拝領。賀茂在弘吉服日時を十一月廿二日と勘進。入江殿へ法安寺田一
10 8 00 8	件で使いを派遣。*前年十月十三日・同廿二日関連。
10月29日 10月30日	恒例の薪順事、今夜から御湯殿上であり。各々くじで結番。亥子。 入江殿に今年〜明年は三分一、以後は全部返還という条件を伝えるが承
10月30日	大江殿に今年~明年は三分一、以後は全部返還という条件を伝えるが承 諾せず。
11月 1日	貞成、椎野に預けていた落蹲面一つを取り寄せる。
11月 3日	薪順事あり。(聞)崇賢門院(後光厳天皇後宮)が院仙洞へ御幸。将軍も
11 11 11 11	院へ。
11月 4日	法安寺住持職良禅中風で重態、よって良明房同職相続。存命中に安堵を 願う。
11月 6日	良明房安堵を奉行三位書下す。良明房お礼に一献持参。
11月 7日	初雪積もる。貞成、初雪恒例の酒宴。田向三位、新宅造作の間庭田へ移
11 8 0 8	住。
11月 8日	貞成、大通院一周忌の為、今日より精進潔斎。
11月 9日	勾當局、今伊勢参詣のついでに伏見宮へ参る。音曲・酒宴。 動族表紹園、同郷於江東は七四佐により佐澤といる意思が無し、東京
11月10日 11月11日	勧修寺経興、国衙検注事は大凶作により年貢収納無しと書状。
11月11日	勾當局が今日帰るので酒宴・乱舞。(聞)今出川公行が實富・公富に楽を 伝授。
	[[11]]

年·月·日	記事の要旨
11月12日	法安寺田の事、今年明年半分、以後は全部(一円)の条件で入江殿承諾
	するも永代か一代限りかでまだ紛争。貞成、大光明寺長老に対し三木善
11月13日	理神職復帰につき関所拝領地の返還を促す。 周乾、大通院仏事の相談に参る。貞成は仏事中は退席せぬよう言われる
11月13日	。大光明寺長老徳祥の天龍寺登用の文書到来とのこと。田向く新邸の立
	柱上棟の儀あり。
11月14日	大通院一周忌仏事、今日から始まる。貞成、次第を詳細に記す。仏事料 として播州国衙役を奉行勧修寺経興に催促のところ国大損亡として渋る。
11月15日	推野殿(貞成連枝)より大通院供養のための自筆筆写の法華経一部を賜る。(聞)仙洞御所で月次御楽あり。
11月16日	後小路信俊、大通院法要の講演・楽奏者等の依頼状況を報告。大光明寺
11/,110	長老徳祥、急きょ天龍寺に入院のため貞成に会って暇乞いできず状で挨拶する。
11月17日	仏事料の件で奉行経興に再三催促するも沙汰せず。懺法講での楽を稽古
11/,11/	する。田向経良・長子父子、懺法講での所作を断る。
11月18日	─ 貞成、三位(経良)に書状で懺法講所作を促す、父子承諾する。貞成、
	懺法講次第を詳細に記す。経興、播州国衙役奉行として沙汰催促に応じる。
11月19日	真成以下各寺庵に配分して法華経の頓写を行う。斎・点心、楽あり。大
	光明寺長老職徳祥後任に文鼎和尚(万寿寺前住)が入院する。椿一検校
11 日 00 日	参り平家を語る。その後御湯殿上で薪順事あり。 大光明寺から御仏事料が贈られる。長老以下招請するも不参。椿一、道
11月20日	場で平家を申す。貞成写経するも間に合わず外題のみず出し、を
	経興、仏事料二百疋(播州分)を納付。六条庁(長講堂)益直代官経直
	参る。
11月21日	大通院の仏事が無事終わる。貞成入浴洗髪する。椿一平家を語る。
11月22日	除服無事に明け、吉服の儀あり。貞成大儀を終え酒宴で酩酊する。
11月23日	御湯殿上で薪順事あり。貞成長女が頭役。連歌あり椿一も参加する。椿 一、平家を申す。長資は禁裏小番のため出京する。*「看」巻二紙背
	懷紙一
11月24日	綾小路信俊、役目を終えて伏見宮を退出する。椿一も退出する。夜に連 歌。
11月25日	玉串が退出するので大通院秘蔵の文殊像一補を遣わす。貞成孔雀琵琶を 弾く。
11月26日	新順事。三木善理、公人を使に財産の返付を求める。上意というが証状
127,227	なし。
11月28日	一筆法花経(書写)を大光明寺御廟前に奉納する。三位、新造宿所未完
	成なれどもこれに移る。菊亭より室町院領河内国高柳庄の押領を企てている者ありとの知らせ、よって貞成、応永廿三年十月九日付の令旨を作
	成する。
11月29日	前宰相より明盛が武蔵堀池を所望する由、仙洞より仰せあり。(奉書案
11/1207	文)
12月 1日	将軍義持子息足利義量加冠元服する。
12月 2日	武蔵堀池の件、返事する。陰陽師賀茂在弘、歳末年始の勘文を進る。
12月 3日	貞成、武蔵堀池の件で菊亭(公行か)と相談する。
12月 5日	真成、若君(義量)元服の祝儀賀状を将軍へ送る。今月十三日は参内と の事。庭田重有、風気退散せず陰陽師に尋ねるとのこと。長資の妻、女
	子を出産する。
12月 6日	「直成」御香宮・山田宮・権現等参詣し自ら筆写した般若心経を三社に奉
	納 三位 足利義量元服の儀より戻り、その様子を貞成に語る。
12月 7日	「薪順事」重有風気にて重能「子具慶壽丸(重賢)流行を恐れ佰所を隔離」
	する。貞成、豪融僧正・栄仁親王(故人)・治仁王(故人)と連歌する
	夢を見る。

12月 9日	年·月·日	記事の要旨
り三日間、田向(経良=三位)新造宿所で不動供あり。庭田重有本復す		
12月10日 故西郷方 (生母) の年忌の仏事あり。 12月12日 豊原郷秋参り、薬あり。 12月12日 豊原郷秋参り、薬あり。 12月13日 歳小路信俊、武蔵郷池預所職を明盛にとの院奉書を持参し貞成に任命を迫る。 貞成、院の意志につきやむを得ず明盛に女房奉書を与え預所職を のじる。 貞成、院の意志につきやむを得ず明盛に女房奉書を与え預所職を のじる。 大光明時前住徳洋を大寛寺でし、茨に仙洞へ参る。 大光明時前住徳洋を大寛寺でし、茨に仙洞へ参る。 大光明時前住徳洋を大寛寺でする。 貞成、百日稽古結願する。 大光明寺に焼香で参り、おしたのでは別へ参しる。 大光明寺に焼香で参り、相様にとりる。 大光明寺に焼香である。 指月庫にも参る。 天光明寺に焼香である。 指月庫にも参る。 天皇時のお礼に参る。 兄も鎌倉建長寺長老就任とのこと。 12月21日 芳徳庵(主)参り、和歌を詠む。 お順事。 節分。 12月21日 芳徳庵(主)参り、和歌を詠む。 3 新順事。 節分。 12月23日 立奉任節、明盛預所職任命以後、はじめて伏見宮へ参る。法安寺良禅入 滅する。 遺跡は良明房が付属されているとのこと。 12月23日 貞成、伏見正田一反を追蔵庵に寄進する。 新順事。 12月25日 貞成、伏見正田一反を追蔵庵に寄進する。 新順事。 12月25日 貞成、伏見正田一反を追蔵庵に寄進する。 表生の書状とは関ロの例に準じ下誠を避害」と書くべしと。 12月28日 貞成から将軍への書状には関白の例に準じ下誠を避害」と書くべしと。 12月29日 甘露寺前大納言、伏見上内延光名名主職を教山承操に返付を申し入れる土御門泰継が新唐と持参する。 第章とり書状あり。 12月39日 甘露寺前大納言、伏見上内延光名名主職を教山承操に返付を申し入れる土御門泰継が新度と持参する。 報告まれあり。 東西州李郎大郎音、伏見宮で青季始め。 (開) 叙位、執筆は三条大納言持基とのこと。 正月 1日 早朝より三騰祝儀。 (関) 叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強姦。 夜、地下殿原衆松泊参り、種々異形の「物学」を行う。 (関) 白馬、衛みめり、内介は大炊御御門太衲音で等周で、三、正、田、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日、日	13), 0,4	り三日間、田向(経良=三位)新造宿所で不動供あり。庭田重有本復す
12月12日 豊原郷秋参り、楽あり。 東の路信後、武蔵城池預所職を明盛にとの院奉書を持参し貞成に任命を迫る。 良成、院の意志につきやむを得ず開盛に女房奉書を与え預所職を命じる。 12月13日 武蔵城池預所職の前任者勝阿、院の御口入につきやむを得ず諦める。 成息女二歳となり髪置の機を行う。若君足利義量、参内し、ついで仙洞へ参る。大が明時前住徳祥、天龍寺に人院する。 12月14日 将軍足利義持に伴われて子息義量参内し、次に仙洞へ参る。 7年2月19日 夜左弘、伏見宮へ新暦二巻八卦等を持参する。 貞成、下光明寺に焼香に参る。 指見庫にも参る。 天龍寺徳祥、大光明寺に焼香に参る。 花鎌倉建長寺長老就任とのこと。 7年2月21日 黄藤庵(主)参り、和歌を詠む。 12月22日 黄藤庵(主)参り、和歌を詠む。 12月22日 黄藤庵(主)参り、和歌を詠む。 12月23日 立本程節のお礼に参る。 兄も鎌倉建長寺長老就任とのこと。 12月23日 京成、原見庄田一反を退職施に寄遺する。 新爾事。 12月23日 貞成、歳末礼の書状を仙洞へ送る。 12月24日 貞成、歳末礼の書状を仙洞へ送る。 12月26日 行御せ付ける令旨の発給を申請する。 不可貞成、令旨を与える。 12月27日 宣町歌の関ロ以下部門跡が歳本に群を参立る。 天皇真郷寛とのこと。 12月28日 百成から将軍への書状には関白の例に準じ「誠恐謹言」と書くへしと。 12月29日 日藤寺前大納 12月29日 日藤寺前大納 12月29日 日藤寺前大納 12月29日 日藤寺前大納 12月29日 日藤寺市大朝言、伏見庄内変光名 12月29日 日藤寺市大朝彦 14月20日 日藤寺市大朝彦 14月20日 日本寺本の「曹寺を名。 12月20日 日本寺本の「曹寺を名。 12月20日 日本寺本の「曹寺を名。 12月30日 日本寺本の「曹寺を名。 12月30日 日本寺本の「曹寺を書」と 12月30日 日本寺本の「曹寺本の「東京・青田」に月13日 日本寺本の「東京・青田」に月15日 東藤のまめ、大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登田される。 12月14日 日本寺本の「東明元氏とのこと。 12月15日 12月18日 12月18日 12月18日 13日18日 13日18日 14日18日	12月10日	
12月12日 綾小路信俊、武蔵堀池預外職を明盛にとの院奉書を与参し真成に任命を迫る。 貞成、院の意志につきやむを得ず明盛に女房奉書を与え預所職を向じる。 貞成、既の意志につきやむを得ず明盛に女房奉書を与え預所職を向じる。 貞成、政五預所職の前任名勝阿、行う。若君足利義量、参内し、ついで仙洞へ参名。 大光明時前住徳洋、天龍寺に入院する。 12月14日 7世足利義時に伴われて子息義量参内し、次に加洞へ参名。 大光明寺に焼香で多入。 12月19日 夜夜在弘、伏見宮へ新暦二巻八卦等を持参する。 貞成、百日稽古結願する。 12月20日 貞成、大光明寺に焼香で参入。 14月尾にも参る。 天龍寺徳祥、大光明寺長老時のお礼に参る。 兄も鎌倉建長寺長老就任とのこと。 12月22日 新順事、節分。 12月23日 新順事、節分。 12月23日 近成、東江の書状を仙洞へ送る。 一日本日本の書が、日本日本日本の書が、日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本		
□ 25 。 貞成、院の意志につきやむを得ず明盛に女房奉書を与え預所職を 命じる。 のになっなり、一部の間で、一部の間で、一部の間で、一部の間で、一部の目ので、一部の目ので、一部の目ので、一部の目ので、一部の目の目ので、一部の目の目ので、一部の目の目の目の目の目の目の目の目の目の目の目の目の目の目の目の目の目の目の目		
12月13日 武巌堀池預所職の前任者勝阿、院の御口入につきやむを得ず諦める。貞 成息女二歳となり襲置の機を行う。若君足利義量、参内し、ついで仙洞へ参る。大光明時前住徳祥、天龍寺に入院する。 12月19日 智葉及在弘、伏見宮へ新暦二巻八卦等を持参する。貞成、百日稽古結願する。 12月20日 賀茂在弘、伏見宮へ新暦二巻八卦等を持参する。貞成、百日稽古結願する。 12月21日 芳徳庵(主)参り、和歌を詠む。 12月21日 万徳では、明庭預所職任命以後、はじめて伏見宮へ参る。法安寺良禅人談する。 遺跡は良明房が付属されているとのこと。 12月26日 貞成、伏見庄田一反を組蔵庫に寄蓮する。 新順事。 12月26日 貞成、伏見庄田一反を組蔵庫に寄蓮する。 新順事。 12月26日 百郎	127,124	迫る。貞成、院の意志につきやむを得ず明盛に女房奉書を与え預所職を 命じる。
12月19日 将軍足利義持に伴われて子息義量参内し、次に仙洞へ参る。 12月29日 賀茂在弘、伏見宮へ新暦二巻八卦等を持参する。貞成、百日稽古結願する。 大光明寺に焼香に参る。指月庵にも参る。天龍寺徳伴、大光明寺長老時のお礼に参る。鬼り、和歌を詠む。 12月21日 芳徳庵(主)参り、和歌を詠む。 12月22日 薪順事。節分。 12月23日 京藤佐郎・明盛預所職任命以後、はじめて伏見宮へ参る。法安寺良禅入蔵する。遺跡は良明房が付属されているとのこと。 12月24日 貞成、伏見庄田一反を退蔵庵に寄進する。薪順事。 月成、读末礼の書状を仙洞へ送る。 12月25日 貞成、成東礼の書状を値にとの兼約と申し室町院領備中国大島保を一円知行即せ付ける今旨の発給を申請する。よって貞成、令旨を与える。 12月27日 宮町殿へ関白以下諸門跡が歳末礼に群参する。天皇房御覧とのこと。 12月28日 貞成がら将軍への書状には関白の例に準じし誠恣薩言」と書くべしと。 12月29日 古露寺前大納言、伏見庄内延光名名主職を叡山承操に返付を申し入れる。土御門泰維が新暦を持参する。勧修寺経輿、播州国衙の年貢を持参する。 応永25年 正月1日 早朝より三幡祝儀。(開)節会。前修寺経輿、播州国衙の年貢を持参する。 応永25年 に別自成、院御薬、『淵酔・出歌)の担当者を記す。三寶院車宿焼亡。正月3日 院御薬。 正月4日 早朝より三幡祝儀。(開)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。 正月1日 早朝より三幡祝儀。(開)節会。院御薬、拝礼。御薬。親族拝。 正月1日 早朝より三幡祝儀。(開)節会。前修寺経輿、播州国衙の年貢を持参する。 「に別事成、院御薬、『淵酔・出歌)の担当者を記す。三寶院車宿焼亡。 正月1日 日成、後久宮に参り祝言を申す。長資、三木関所小田の件で源宰相と不和。 「正月1日 日成、後、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 「正月1日 日成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。正月1日 日成、後小松院への賀書を長資に託し帰って歯固めの儀行う。地下輩を正月1日 日成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。正月1日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。正月1日 長資、婚本衛会によりに将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	12月13日	武蔵堀池預所職の前任者勝阿、院の御口入につきやむを得ず諦める。貞 成息女二歳となり髪置の儀を行う。若君足利義量、参内し、ついで仙洞 へ参る。大光明時前住徳祥、天龍寺に入院する。
る。	12月14日	将軍足利義持に伴われて子息義量参内し、次に仙洞へ参る。
12月20日 貞成、大光明寺に焼香に参る。兄も鎌倉建長寺長老就任とのこと。 12月21日 芳徳庵(主)参り、和歌を詠む。 お順事。師分。 立春佳節。明盛預所職任命以後、はじめて伏見宮へ参る。法安寺良禅入 滅する。遺跡は良明房が付属されているとのこと。 12月24日 貞成、伏見庄田一反を退蔵庵に寄進する。薪順事。 貞成、伏見庄田一反を退蔵庵に寄進する。薪順事。 12月25日 貞成、歳末礼の書状を仙洞へ送る。 12月26日 音の発給を申請する。よって貞成、令旨を与える。 12月27日 室町殿へ関白以下諸門跡が蔵末礼に群参する。天皇貢馬御覧どのこと。 12月28日 貞成から将軍への書状には関ロの例に準じ「誠恐謹言」と書くべしと。 12月29日 甘露寺前大納言、伏見庄内延光名名主職を叡山承操に返付を申し入れる。土御門衆継が新暦を持参する。菊亭より書状あり。 歳末の挨拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衙の年貢を持参する。 土の大り頃成、守貞成・令首を与える。 12月30日 上の東京・新暦を持参する。初春寺経興、播州国衙の年貢を持参する。土御門衆継が新暦を持参する。初春寺経興、播州国衙の年貢を持参する。土御門衆継が新暦を持参する。初春寺経興、播州国衙の年貢を持参する。 一正月 1日 早朝より三觴祝儀。(間)節会。院御薬。拝礼。御薬、親族拝。 正月 1日 早朝より三觴祝儀。(間)節会。院御薬。拝礼。御薬、親族拝。 正月 1日 早朝より三に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 正月 1日 大の東京・大の東京・大の東京・大の東京・大の東京・大の東京・大の東京・大の東京・	12月19日	る。
12月22日 薪順事。節分。 12月23日 立春佳節。明盛預所職任命以後、はじめて伏見宮へ参る。法安寺良禅入滅する。遺跡は良明房が付属されているとのこと。 12月24日 貞成、伏見庄田一反を退蔵庵に寄進する。薪順事。 12月25日 貞成、歳末礼の書状を仙洞へ送る。 12月26日 台部興経時参り、大通院との兼約と申し室町院領備中国大島保を一円知行仰せ付ける合旨の発給を申請する。よって貞成、合盲を与える。 12月27日 室町殿へ関白以下諸門跡が歳末礼に群参する。天皇貢賜御覧どのこと。 12月28日 貞成から将軍への書状には関白の例に準じ「誠恐謹言」と書くべしと。 12月29日 甘露寺前大納言、伏見庄内延光名名主職を叡山承操に返付を申し入れる。土御門泰継が新暦を持参する。 葡修寺経興、播州国衙の年貢を持参する。 上御門泰継が新暦を持参する。 葡修寺経興、播州国衙の年貢を持参する。 応永25年 早朝より三糖祝儀。(聞)節会。院御薬。拝礼。御薬。 親族拝。 正月 1日 早朝より三糖祝儀。(聞)節会。院御薬。 拝礼。御薬。 親族拝。 正月 1日 早朝より三糖祝儀。(聞)節会。院御薬。 拝礼。御薬。 親族拝。 正月 1日 早朝より三糖祝儀。(聞)節会。院御薬。 拝礼。御薬。 親族拝。 正月 1日 早朝より三糖祝儀。(聞)節会。 院御薬。 拝礼。御薬。 親族拝。 正月 1日 早朝より三糖祝儀。(聞)節会。 院御薬。 拝礼。御薬。 親族拝。 正月 1日 早朝より三糖祝儀。(聞)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 預飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。 (聞)百馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 下月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 11日 貞成、後小松院への賀書を持参する。 これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月 11日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月 12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月 13日 巨経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月 15日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月 15日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月 15日 寝旅・弥飯。三球秋を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風 近京、路町・産苑院への書状・賀礼を託		貞成、大光明寺に焼香に参る。指月庵にも参る。天龍寺徳祥、大光明寺 長老時のお礼に参る。兄も鎌倉建長寺長老就任とのこと。
12月23日 立春佳節。明盛預所職任命以後、はじめて伏見宮へ参る。法安寺良禅入 滅する。遺跡は良明房が付属されているとのこと。 12月25日 貞成、伏見庄田一反を退蔵庵に寄進する。薪順事。 12月26日 治部卿経時参り、大通院との兼約と申し室町院領備中国大島保を一円知 行仰せ付ける今旨の発給を申請する。天皇両御覧どのこと。 12月27日 室町殿へ関白以下諸門跡が歳末礼に群参する。天皇南郷町どのこと。 12月28日 貞成から将軍への書状には関白の例に準じ「誠恐謹言」と書くべしと。 12月29日 甘露寺前大納言、伏見庄内延光名名主職を叡山承操に返付を申し入れる。 土御門泰継が新暦を持参する。菊亭より書状あり。 12月30日 歳未の挨拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衙の年貢を持参す る。 応永25年 正月 1日 早朝より三觸祝儀。(聞)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。 正月 2日 (間)貞成、院御薬、淵酔・出歌)の担当者を記す。三寶院車宿焼亡。 原御薬。 正月 3日 院御薬。 (間)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 3日 伏見宮で音楽始め。(間)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「か学」を行う。(聞)白馬 節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し伽洞へ派遣する。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し伽洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参 る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風 近。成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	12月21日	芳徳庵(主)参り、和歌を詠む。
減する。遺跡は良明房が付属されているとのこと。	12月22日	T
12月25日 貞成、伏見庄田一反を退蔵庵に寄進する。薪順事。 12月25日 貞成、歳末礼の書状を仙洞へ送る。 12月26日 育成、歳末礼の書状を仙洞へ送る。 12月27日 室町殿へ関白以下諸門跡が歳末礼に群参する。大皇貢馬御覧どのこと。 12月27日 室町殿へ関白以下諸門跡が歳末礼に群参する。天皇貢馬御覧どのこと。 12月28日 貞成から将軍への書状には関白の例に準じ「誠恐謹言」と書くべしと。 12月29日 甘露寺前大納言、伏見庄内延光名名主職を叡山承操に返付を申し入れる。上御門泰継が新暦を持参する。菊亭より書状あり、出側門泰継が新暦を持参する。菊亭より書状あり、電末の挨拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衙の年貢を持参する。 正月 1日 早朝より三觴祝儀。(聞)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。正月 2日 (聞)貞成、院御薬(淵酔・出歌)の担当者を記す。三寶院車宿焼亡。正月 3日 院御薬。 正月 4日 干寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 正月 5日 伏見宮で音楽始め。(聞)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。正月 8日 御湯始め、大光明寺長老等参資。乾蔵主、六日に首座に登用される。正月 9日 徳舎あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 1日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御蔵など行う。 正月12日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御献など行う。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。日前は、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	12月23日	滅する。遺跡は良明房が付属されているとのこと。
12月25日 貞成、歳末礼の書状を仙洞へ送る。 12月26日 治部卿経時参り、大通院との兼約と申し室町院領備中国大島保を一円知行仰せ付ける令旨の発給を申請する。よって貞成、令旨を与える。 12月27日 室町殿へ関白以下諸門跡が歳末礼に群麥する。天皇貢馬御覧とのこと。 12月28日 貞成から将軍への書状には関白の例に準じ「誠恐謹言」と書くべしと。 12月29日 甘露寺前大納言、伏見庄内延光名名主職を叡山承操に返付を申し入れる。上御門泰継が新暦を持参する。 菊亭より書状あり。 12月30日 歳末の挨拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衙の年貢を持参する。 上御門泰継が新暦を持参する。 勧修寺経興、播州国衙の年貢を持参する。 上側門泰継が新暦を持参する。 一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の事務を表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一直の表して、一方の事を表して、一方の事務を表して、一方の事が表して、一方の事務を表して、一方の事が表して、一方の事を表して、一方の事が表して、まり、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の事が表して、一方の表して、一方の事が表して、一方の事がありまり、一方の事がありまり、一方の事がありまりまりまりまりまりま	12月24日	貞成、伏見庄田一反を退蔵庵に寄進する。薪順事。
7仰せ付ける令旨の発給を申請する。よって貞成、令旨を与える。 12月27日 室町殿へ関白以下諸門跡が歳末礼に群参する。天皇貢馬御覧どのこと。 12月28日 貞成から将軍への書状には関白の例に準じ「誠恐謹言」と書くべしと。 12月29日 甘露寺前大納言、伏見庄内延光名名主職を叡山森操に返付を申し入れる。土御門泰継が新暦を持参する。菊亭より書状あり。 12月30日 歳末の挨拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衙の年貢を持参する。 応永25年 正月 1日 早朝より三觴祝儀。(間)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。 正月 2日 (間)貞成、院御薬 (淵酔・出歌)の担当者を記す。三寶院車宿焼亡。 正月 3日 院御薬。 正月 4日 子寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 正月 5日 伏見宮で音楽始め。(間)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松村参り、種々異形の「物学」を行う。(間)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御場始め、大・明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を石し猿楽を見物する。屬星祭御祓など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月15日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月16日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月16日 貞成、路歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	12月25日	貞成、歳末礼の書状を仙洞へ送る。
12月27日 室町殿へ関白以下諸門跡が歳末礼に群参する。天皇貢馬御覧どのこと。 12月28日 貞成から将軍への書状には関白の例に準じ「誠恐謹言」と書くべしと。 12月29日 甘露寺前大納言、伏見庄内延光名名主職を叡山承操に返付を申し入れる 上御門泰継が新暦を持参する。菊亭より書状あり。 北御門泰継が新暦を持参する。菊亭より書状あり。 歳末の接拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衙の年貢を持参する。 応永25年 上明 早朝より三觴祝儀。(開)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。 正月 日 早朝より三觴祝儀。(開)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。 正月 日 早朝より三觴祝儀。(開)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。 正月 日 子寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 上月 日 大見宮で音楽始め。(間)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 日 一田 代見宮で音楽始め。(間)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 日 一田 一田 一田 一田 一田 一日 一日	12月26日	治部卿経時参り、大通院との兼約と申し室町院領備中国大島保を一円知 行仰せ付ける令旨の発給を申請する。よって貞成、令旨を与える。
12月28日 貞成から将軍への書状には関白の例に準じ「誠恐謹言」と書くべしと。 12月29日 甘露寺前大納言、伏見庄内延光名名主職を叡山承操に返付を申し入れる。土御門泰継が新暦を持参する。菊亭より書状あり。 歳末の挨拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衙の年貢を持参する。 歳末の挨拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衙の年貢を持参する。 本永25年 中朝より三觴祝儀。(聞)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。 正月 1日 早朝より三觴祝儀。(聞)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。 正月 3日 院御薬。 『正月 4日 子寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 正月 5日 伏見宮で音楽始め。(聞)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。 これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月 11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御祓など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月 14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月 15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津) 松拍参り種々風流。 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	12月27日	室町殿へ関白以下諸門跡が歳末礼に群参する。天皇貢馬御覧どのこと。
12月29日 甘露寺前大納言、伏見庄内延光名名主職を叡山承操に返付を申し入れる。土御門泰継が新暦を持参する。菊亭より書状あり。 歳末の挨拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衙の年貢を持参する。		
12月30日 歳末の挨拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衙の年貞を持参する。 応永25年 正月 1日 早朝より三觴祝儀。(聞)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。 正月 2日 (間)貞成、院御薬(淵酔・出歌)の担当者を記す。三寶院車宿焼亡。 正月 3日 院御薬。 正月 4日 千寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 正月 5日 伏見宮で音楽始め。(聞)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松柏参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月 11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御祓など行う。 正月 12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月 13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月 14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月 15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松柏参り種々風流。 正月 16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託		甘露寺前大納言、伏見庄内延光名名主職を叡山承操に返付を申し入れる
正月 1日 早朝より三觴祝儀。(聞)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。 正月 2日 (聞)貞成、院御薬(淵酔・出歌)の担当者を記す。三寶院車宿焼亡。 正月 3日 院御薬。 正月 4日 千寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 正月 5日 伏見宮で音楽始め。(聞)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御献など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 野経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。	12月30日	歳末の挨拶に各寺庵の僧等参る。勧修寺経興、播州国衙の年頁を持参す
正月 1日 早朝より三觴祝儀。(聞)節会。院御薬。拝礼。御薬。親族拝。 正月 2日 (聞)貞成、院御薬(淵酔・出歌)の担当者を記す。三寶院車宿焼亡。 正月 3日 院御薬。 正月 4日 千寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 正月 5日 伏見宮で音楽始め。(聞)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御献など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 野経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。		
正月 2日 (聞)貞成、院御薬(淵酔・出歌)の担当者を記す。三寶院車宿焼亡。 正月 3日 院御薬。 正月 4日 千寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 正月 5日 伏見宮で音楽始め。(聞)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御献など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	応永25年	
正月 2日 (聞)貞成、院御薬(淵酔・出歌)の担当者を記す。三寶院車宿焼亡。 正月 3日 院御薬。 正月 4日 千寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 正月 5日 伏見宮で音楽始め。(聞)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御献など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託		
正月 3日 院御薬。 正月 4日 千寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 正月 5日 伏見宮で音楽始め。(聞)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御献など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託		
正月 4日 千寿萬歳、伏見宮に参り祝言を申す。長資、三木闕所小田の件で源宰相と不和。 正月 5日 伏見宮で音楽始め。(聞)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御祓など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。		(
と不和。 正月 5日 伏見宮で音楽始め。(聞)叙位、執筆は二条大納言持基とのこと。 正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御祓など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	· ·	
正月 7日 強飯。夜、地下殿原衆松拍参り、種々異形の「物学」を行う。(聞)白馬 節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を 召し猿楽を見物する。屬星祭御祓など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託		と不和。
節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。 正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御祓など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託		
正月 8日 御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。 正月 9日 惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。 正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を召し猿楽を見物する。屬星祭御祓など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	正月 7日	節会あり、内弁は大炊御門大納言宗氏とのこと。
正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を 召し猿楽を見物する。屬星祭御祓など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参 る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風 流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	正月 8日	御湯始め。大光明寺長老等参賀。乾蔵主、六日に首座に登用される。
正月11日 貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を 召し猿楽を見物する。屬星祭御祓など行う。 正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参 る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風 流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	正月 9日	惣得庵主・御寮明元、御寮雪を持参する。これを鑑賞し酒宴・音曲。
正月12日 貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。 正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参 る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風 流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託		貞成、御香宮等周辺の神社に参詣し、帰って歯固めの儀行う。地下輩を
正月13日 町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参る。 正月14日 長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。 正月15日 御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	正月12日	貞成、後小松院への賀書を長資に託し仙洞へ派遣する。
流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	and the second s	町経時・六条庁益直参賀。大光明寺(長老)、崇光院忌日に付焼香に参
流。 正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託	正月14日	長資、仙洞への使いから戻り、賀書披露の由報告する。
正月16日 貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託		御粥・強飯。三球杖を焼く。地下(石井・山村・船津)松拍参り種々風流。
	正月16日	貞成、踏歌節会出仕の為出京の長資に将軍・鹿苑院への書状・賀礼を託

年·月·日	記事の要旨
正月17日	楽あり。長資、京より戻り相応院の賀書等を渡す。
正月18日	郷秋参り楽稽古あり。前宰相欝憤ありて不参、再三の召しにようやく応じる。
正月19日	早朝より楽あり、終わって前宰相帰る。長資、八幡社へ参詣。
正月20日	大光明寺長老等、焼香に参る。勘解由小路三位入道、賀礼に参る。
正月22日	徳大寺右衛門佐、土産を持って参る(貞成と旧交ある人物か)。
正月24日	貞成、雨天に付、双六を打って過ごす。
正月25日	(聞)義嗣、逃走を企てるも加賀守護山川舎弟に討たれ「頭」は侍所所司 代富樫から等持寺へ。寺家・義嗣旧宅は放火、義嗣の子息は伊勢宿所へ 。去る廿日に陰陽師(安倍)晴了が「兵革瑞」と占う、よって討伐を急 ぐ。
正月26日	貞成連枝椎野殿、土産樽等持参する。
正月27日	貞成、御所旧跡月見岡辺で野遊び。その後船遊びし酒宴。
正月28日	貞成茶会を張行する。足利義嗣の子息死罪を免れ泉涌寺喝食となる。
正月30日	和歌短冊を配り来月三日に和歌披講。双六会を催し貞成が勝つ。
2月 1日	貞成、松山に遊山し松を堀取り庭前に植える。
2月 2日	茶会(順事回茶)。(聞)明盛法橋去廿二日に六条殿預、子息は後戸に補 さる。
2月 3日	明盛子息千代寿(盛賢)・梅寿(快賢)仙洞より名字を賜る賀酒振る舞 い。
2月 4日	田向にて茶会あり。
2月 5日	三十日に出題の和歌を披講する。左府今出川公行、広橋兼宣聖廟法楽に 和歌勧進の計画ありて貞成にも出歌を促す。
2月 6日	茶会順事(回茶七所勝負)あり、寿蔵主頭人なり。
2月 7日	三位以下松山に松を取りに行く。帰りを待って連歌を行う。
2月 8日	昨日の松を庭に植える。治仁手植えの栗の木を三位所望につき与える。
2月 9日	貞成御香宮・不動堂へ参詣。葆光院(治仁)一周忌、三時勤行始まる。
2月10日	時正(春季彼岸)初日。長階局より仏事料の助成を受ける。
2月11日	仏事斎・点心等行う。
2月12日	法華経書写、焼香等の仏事あり。梅見遊覧。
2月13日	時正(春季彼岸)中日。
2月15日	彼岸仏事。貞成、父大通院の五部大乗経書写の遺志を継ぎ書写を決意する。(聞)御室新御所(将軍舎弟)廿二歳で入滅。
2月16日	時正(彼岸) 結願。(聞)石井薮中(新堂前)に奇女出現、狐かという噂。
2月19日	貞成、菊亭へ北野法楽に和歌十三首を詠み遣わす。
2月21日	正月十日六条殿後戸伊勢八幡社の戸から烏侵入。怪異として大般若経転読す。
2月22日	貞成、良明房「坊主開」(坊主新任披露)の為、法安寺に行く。帰路花 見。
2月23日	貞成、御香宮馬場へ花見に行く。御所でも花見の際、御香宮聖慶俊が酒 持参。連歌一折。*「看」巻二紙背 懐紙三
2月25日	聖廟法楽連歌あり。三位、鹿苑院の返事を報告。来月より月次連歌を始 む。将軍義持加冠役をつとめ、花山院忠定猶子耕雲(長親)元服する。 *応永二三年十一月九日条参照。
2月27日	春日祭。今出川公富上卿役として下向、左府公行等旅宿として三日間逗留。。 留。
2月28日	貞成、伏見宮東庭に花壇を南庭に小弓場を設ける。
2月29日	伏見宮南庭の前栽立石の為、才学のある蔵光庵(主?)を召す。(聞)小 川大納言入道(義満舎弟、義詮)、病気で重態とのこと。
3月 1日	雀小弓張行あり。申酉時刻に日食。
3月 2日	小弓張行。

年·月·日	記事の要旨
3月 3日	鶏闘あり、伏見宮に鶏無く五羽都合する。京都北小路今出川より出火炎
	上。(聞)筑前国住吉本社領家代官職を信濃守為茂所望の件、いまだ決着
3月 4日	せず。 貞成、仙洞・鹿苑院へ近火見舞いの使者を派遣する。日野一位禅門(性
3月 4日	貴成、価値・庭苑院へ近久見舞いの使者を派遣する。 百野一位樺門(宝 光)より聖幢庵住持職口入の件で使いあり。 貞成、蕨採りに出かける。
3月 5日	賀茂在弘上巳秡を献ず。
3月 6日	貞成、御所旧跡より石を取り寄せる。左府公行より春日祭の有様に付状 あり。
3月 8日	重有京より戻り、仙洞・鹿苑院の無事を報告。三条坊門大納言(中院) 通守、先月十日に自害する。
3月 9日	法勝寺五大堂勧進で田楽あり。将軍義持これを見物する。
3月10日	御香宮にて猿楽あり。摂津国鳥飼(座)猿楽出仕。
3月11日	御香宮猿楽昨日同様行う。小弓会あり。
3月12日	日野弁入道持光・山科教高、足利義嗣謀反により配所加賀で誅さる。(聞
)矢田地蔵堂で平家勧進の最中に地蔵菩薩が錫杖を振るという話。法勝寺 五大堂勧進でまた田楽あり、将軍義持これを見物する。
3月14日	近人星御進しまた田米のり、村事義村に40を元初りる。 昨日、称光天皇、近来天変火事兵革続きに付、六条殿に御経供養を命ず
0/1111	る。
3月15日	子丑時刻に月食。祈雨により雨降る。小弓会あり。
3月16日	(聞)将軍義持と鹿苑院(主)と不仲とか。
3月17日	車突に羽蟻わく、占は「慎事」とあり。よって貞成小狩衣・大口袴を新
0.110.11	調す。法勝寺五大堂勧進での田楽に義持が勾當(局)を召す。
3月18日	廿二日は寶巌院の開山花林比丘尼の三十三回忌に付、塔頭仏事。(聞)貞成、大光明寺長老(文鼎)から鹿苑院主(顎隠)が将軍の怒りをかった
	一大元明寺長名(文語)がら底処院主(頻隠)が青年の恋りをかった 理由を聞く。
3月19日	小弓会あり。
3月20日	塔頭仏事に故花林縁者参る。日野性光聖幢庵住持職就任は国母口入れと
3月21日	の事。 塔頭仏事。貞成山つつじを見物に月見岡辺に行く。
3月23日	小弓会あり。七所勝負。
3月24日	
	の事。
3月25日	小弓会あり。伏見宮男女、賽を打つ。
3月26日	月次連歌あり、善基頭役として申沙汰。
3月27日	一昨日に続き賽を打つ。安一座頭参る。貞成、日野に聖幢庵住持職安堵する。
3月28日	貞成風呂に入る。三位以下、熊野参詣を企て今日から講を始める。
3月29日	小弓会あり、重有順事の頭役。
3月30日	三月盡の和歌出題。塔頭にて会合あり、安一(座頭)参り平家を申す。
	鹿苑院主(顎隠)廿七日に相国寺入院を命じられる。義持との不和解決
4月 1日	か。 小弓あり、懸 物 は賭弓のごとくであった。
4月 4日	直成、除目聞書を披見する。
4月 4日 4月 5日	貝成、除日聞音を扱見する。 播州飾磨津別府代官職を赤松性応所望により奉行勝阿に補任状書下を命
4月 0日	じる。足利義嗣子息、泉涌寺喝食として入室さるも、仙洞より苦情あり
4 17 6 17	て富樫へ戻す。
4月 6日	後伏見院聖忌法事讚、椎野寺で行う。近年黒田庄役減少により御所で行えず。(後聞)椎野寺僧、法事讃終了後に妻敵に殺害される。
4月 7日	(間)熊野神輿動座にて守護を訴える。去五日鹿苑院で絶海中津十三年忌
	あり。将軍義持、鹿苑院に入御。顎隠との関係を修復する。
4月 8日	貞成、大光明寺仏生会(浴仏之儀)へ参る。
4月10日	祖一勾当(座頭)、伏見宮へ参り平家を申す。
4月11日	天変。夜、京極屋形近辺で火事あり。

年·月·日	記事の要旨
4月13日	寿蔵主領知の山城国多嘉(多賀)と戸野(富野)の間に確執あり。
4月15日	柳原行光、天龍寺仏事にて周乾蔵主、後堂首座秉払を勤めた様を語る。 土倉寶泉の土蔵新造祝いに三位以下出かける。
4月16日	貞成、周乾蔵主の首座秉払無為に付、賀状を遣わす。小弓あり。
4月17日	賀茂祭。典侍は中山中納言息女とのこと。
4月19日	天龍寺長老(前大光明寺長老徳祥)が周乾を首座に登用する考えあり。 室町院領越州梶庄菅名庄代官職を田村盛兼が所望につき、これを仰せ付 ける。
4月21日	炎旱により祈雨の奉幣(使)を行う。相国寺・天龍寺でも祈祷あり。貞 成、田向新造邸に招待され関係者一同で出かける。
4月22日	貞成頭役として月次連歌行う。
4月23日	貞成、光臺寺風呂に入る。
4月24日	熊野社僧神輿を奉じ紀伊田辺辺で畠山満家と合戦。
4月25日	祈雨奉幣行う。
4月27日	武蔵堀池の内の山野、明盛押領の由、性徳院訴える。よって停止を仰せる。
4月29日	る。 南禅寺にて三百三十三人の僧が祈雨の観音懺法を行う。
4月30日	小弓あり。
5月 1日	小弓あり、明日田向にて百手射ること。
5月 2日	小弓明日も百手。等持寺八講始まる。
5月 3日	弓、百手会あり。
5月 4日	早朝より軒菖蒲を葺く。将軍へ続命縷(薬玉)を贈る。菊亭より菖蒲枕。
5月 5日	端午節句。貞成風呂に入る。
5月 6日	等持寺八講結願。
5月 8日	貞成、御香宮へ参詣する。女官賀々、重有の子供男子を出産する。
5月 9日	貞成、陽明局へ行き飲酒。
5月10日	性徳院より武蔵堀池明盛押領の件で使いの僧が参る。
5月11日	真成等、囲碁を廻打つ。
5月14日	小河大納言(前権大納言足利満詮)逝去。
5月15日	庭田(田向)にて故明堯七回忌の仏事あり。足利満詮に従一位左大臣を 追贈。小倉公種、満詮に殉じ出家、所望により正二位大納言を贈られる。
5月16日	貞成、退蔵庵・指月庵等を歴覧する。満詮荼毘にふさる。
5月19日	水無瀬三位入道(法覚・具隆)が源氏(橋姫・夢浮橋)の書写を所望する。
5月22日	真成、前宰相に満詮のことで広橋(伝奏)経由で室町殿へ弔問を仰せる。
5月24日	正永(冷泉範綱)参り、囲碁双六を回し打つ。
5月25日	貞成風呂に入る。前宰相に御恩として三木闕所を与える。囲碁を打つ。
5月26日	貞成、水無瀬の再三の懇望により源氏二帖書写を了承する。播州飾磨津 別府を赤松小寺入道所望の件、萩原宮平岡御比丘尼より支障あり。
5月27日	智恩院より宇治茶を進呈さる。
5月30日	貞成、体調を崩し終日床に臥せる。
6月 1日	貞成、恒例の愛染王堂参詣。
6月 2日	貞成瘧病発作。(聞)諸大名の動静不穏により将軍警護を固めるとのこと。
6月 4日	貞成瘧病発作、退蔵庵の僧秘術を行う。
6月 5日	広橋三位(右大弁資光?)より来るようにとのことで人(三位)を派遣する。
6月 6日	貞成瘧病発作あり、(退蔵庵僧)の秘術でこれを落とす。三位、広橋よ り戻り青蓮院・御室に御弟子無く伏見宮に人材の有無を問い合わせあり とのこと。足利義嗣謀反事件で畠山・山名・土岐加担として罪を問われ
6月 7日	る。 祇園会、足利満詮逝去のことで結構無し。けれども義量御臺見物する。
	Live to the state of the state

年·月·日	記事の要旨
6月8日	侍所所司代、状をもって去年の盗人事件で禅啓・三木善理の出頭を要請
	。(聞)久我通宣、将軍突鼻(とっぴ)につき出頭の要請あり、貞成は明
	日応じる由。
6月 9日	御香宮へ今日から供花。富樫(侍所)所司代より使いあるも居留守。
6月10日	侍所へ返事の後また三木を政所で尋問に付出頭の要請あり貞成明日応じ
C P 11 D	る由。(聞)夜、一条烏丸薬師堂焼失する。
6月11日 6月12日	小川禅啓侍所へ出頭し、三木帰住拒否の旨伝奏広橋に伝える。
0月12日	三位・禅啓所司代へ出頭するも三木善理不参。御領の件は追って披露と の事。伝奏広橋のことにつき落書あり。椿一検校が参り平家を申す。*
6月13日	「中央之儀」。 玉櫛禪門所望により森船を遣わす。三木善理ついに侍所へは現れず。鹿
07134	本院顎隠が逐電する。貞成受衣師弟の契約を申請中につき落胆する。* 紙背160号
6月14日	祇園会毎年の通り。貞成風呂に入る。
6月15日	用健(乾蔵主)後堂寮を退いたこと挨拶。顎隠十二日に逐電し土佐汲江
	庵へ。
6月17日	栂尾経増、文書を示し備中大島保
	四分の一と飾磨津別府の返付を申し入れる。田村盛兼参り、日向国平群
6月18日	<u>住代官職を所望する。貞成、不審に思いながらも仰せ付ける。</u> 大風・大雨。惣得庵(主)、伏見宮に参る。
6月19日	次星に付東寺・三井寺に祈雨を仰せた法験による大風雨か。恵舜蔵主一
0/110 H	周忌。
6月21日	世四日故三条公豊十三回忌仏事の為、対御方(貞成継母)出京する。(聞
)相国寺長老(九条故禅閣息)、顎隠逐電後の鹿苑院主を兼帯するため移
СНООН	住する。
6月22日	貞成、指月庵に行き、その後大光明寺の風呂に入る。
6月23日 6月24日	タ立・雷鳴。貞成、六月の夕立を喜ぶ。 光明院聖忌の仏事が大光明寺にて行われるも貞成不参加。(聞)故内府入
0月24日	道十三回忌のため椎野寺に対御方・三条公光一党が出かける。
6月25日	大津馬借等、祇園神輿を奉じて嗷訴する。将軍義持、侍所に命じて鎮圧。
6月26日	伏見庄内の確執により深草で地下人の合戦あり。
6月27日	菊亭故東向(故左府入道室・貞成養母)廿五年忌の仏事を行う。貞成、 伏見宮常御所の造作を命じ、障子(障子絵花園院宸筆)を入れる。
6月28日	昨日からの造作、今日で終わる。
6月29日	源宰相参り、六月祓の輪役を近年勤めている事等話す。
7月 1日	伏見宮で楽あり。豊原郷秋参る。
7月 2日	楽あり。(聞)内裏新内侍懐妊に付、称光天皇が伏見宮の男共の子かと疑 う。
7月 3日	楽あり。
7月 4日	源宰相、宇治今伊勢に参詣し土産を貞成に進呈する。
7月 5日	楽あり。菊亭より花合わせに用いる草花の所望あり。
7月 6日	貞成、菊亭へ草花一筒遣わす。楽あり。
7月 7日	七夕。梶の葉法楽あり。貞成、光厳院忌日に付大光明寺へ参り焼香する
	。七夕法楽花合を伏見宮常御所にて行う。仙洞での花合・楽の次第を記 す。
7月 8日	左府より昨日話題になった蘇合急三反説のことで書状あり。
7月 9日	花飾りを撤収する。豊原郷秋参り楽あり。
7月10日	対御方三条より戻り新内侍懐妊の嫌疑に付語る。
7月11日	周郷(天龍寺)掛塔に貞成書状を用いる件、長老より叶わぬ旨返事あり
	。芝殿、勾當局に参り新内侍懐妊事件につき長資と行豊に嫌疑ありと聞
7月12日	く。 三条大納言公量、延光名主職を三条青侍教基所望の旨を伝える。
7月13日	杉殿廿五年忌仏事が来る十五日塔頭であり。
17110H	[[]]以中共一心下生。八〇一十十四次(四)(

年·月·日	記事の要旨
7月14日	新内侍懐妊の嫌疑が貞成にかかっているが事実はどうかと内々のお尋ね
	あり。
7月15日	貞成仮名書状で自身の申しひらき。伏見宮関係者にも告文提出の旨伝え る。
7月16日	貞成書状は伝奏を通じ将軍へ披露、いささか疑い晴れるとのこと。
7月17日	貞成、嫌疑を晴らす為北野社へ代参、大光明寺他へ祈祷を命じる。貞成 も三位・重有と同じく宝印を翻して告文を書く。 のである。
7 1 10 11	も三位・重有と同じく宝印を翻して告文を書く。 貞成と三位等嫌疑の者、疑いを晴らす為早朝より御香宮へ参詣し御百度。
7月18日	貝成と三位寺嫌疑の者、疑いを明らり為早朝より神音音へ参詣し神百度。 貞成三日間の御百度満了、御香宮にて大般若経転読を行わしむ。
7月20日 7月22日	貝成二日間の御日度禰丁、御省呂にて入版石程転託を1147とむ。 貞成告文を将軍披見せず伝奏に読ませ仙洞へ披露を命ず。院、貞成告文
	を見て明瞭な返事無し。将軍、岩頭を召還し伏見宮での猿楽興行の有無 を尋ねるも興行せずと答う。勾當、新内侍懐妊の責任を問わるも将軍留 保。
7月23日	大光明寺・退蔵庵・蔵光庵、祈祷の為、大般若経転読実施を報告する。
7月25日	貞成、早朝より三社(御香宮・山田・権現)へ参詣。北野社へは七日の 代参。月次連歌。
7月26日	(聞)来月廿八日、一条関白息(義持猶子)青蓮院で得度し鎌倉大御堂へ 入室。
7月28日	仙洞から去年の八朔の御返(香箱・盆・引合)が伏見宮に届く。*巻六 紙背 75号
7月29日	夜大雨降り、深夜には雷鳴。
7月30日	八朔の進物の準備。
8月 1日	貞成、八朔の進物を仙洞・将軍・若公へ届けさせる。
8月 2日	将軍・若公より八朔の御返到来。座頭了珍参り四五句申す。
8月 3日	菊亭(今出川)より八朔の三日憑進上。寿蔵主等からも御憑。
8月 4日	源宰相、御憑として太刀一振を持参する。
8月 5日	楽・朗詠あり。長階局より御憑献上さる。
8月 6日	貞成御憑返しを宮中男女に与える。牛飼孫石丸・孫高丸(孫石丸子)参 る。
8月 7日	早朝より楽あり。
8月 9日	水無瀬 (法覚) 懇望の源氏 (物語) 二帖の書写を終え、これを遣わす。 貞成、他所へ預けてあった大通院御物を取り戻す。*五月十九日条参照。
8月10日	(聞)関東大名南部(守行)、上洛し将軍へ馬百疋金十両献上するとの事。
8月12日	水無瀬(法覚)、源氏物語書写の礼を貞成に述べる。
8月13日	貞成、御香宮へ今月から三ケ年の月詣を立願し、今日より始める。
8月14日	石清水放生会、長資次将として出仕(恒例)。(聞)相国寺法界門建立さる。
8月15日	放生会にて石清水神人訴訟(籠居?)により延引する、一昨年同様か。
8月16日	時正(秋期彼岸)初日。小規模な地震あり。
8月17日	将軍義持、諸社にて恠異あるにより五檀法を修す。伏見宮に盲女(愛寿と弟子菊寿)参り芸能五六句申す。
8月18日	勘解由小路武衞他界する。貞成、大通院三周忌作善として法華経写経を 始む。
8月19日	(聞)武衞往生の様に付、万人群集し、将軍ご覧との事。嗟峨法音院に土 葬す。
8月22日	彼岸結願。大通院御相伝の仏舎利を取り出して見る。
8月23日	貞成、指月庵に行き、顎隠の替わりとして大幢院主に便宜を頼む。
8月24日	珠侍者参り障子色紙形詩に付、談ず。
8月25日	月次連歌あり、夜に百韻を終える。
8月27日	貞成、例によって風呂に入る。
8月28日	四条隆富一献持参し参る。
8月晦日	貞成、野遊びに出かけ、蒼玉庵にて栗拾い等楽しむ。

年·月·日	記事の要旨
9月 1日	御香宮祭礼。貞成、密かに相撲を見物する。
9月 2日	貞成、鵝障子(常御所造作の障子破損箇所)の色紙形の詩を妙法院宮に 所望。松木宗量(宗宣)、新内侍懐妊事件讒奏と国母との密通の件で院 の動物を被る
9月 3日	の勅勘を被る。 妙法院宮に所望していた色紙詩を賜う。
9月 6日	称光天皇、喉痺御悩。
9月 8日	所司代より両使ありて三木善理以下帰住・田畑返還を求む。
9月 9日	重陽節句。貞成、御香宮祭礼見物の為田向に行く。神主供奉せず。
9月10日	重傷即句。負成、何皆皆宗代兄初の為田門に行く。 行工民事とう。 師子参る。法安寺にて猿楽あるも貞成所用ありて見物できず残念がる。
9月10日	将軍、三木の件、善理・善康の帰住を認めるも、請文提出を仰せ付ける
	「行事、二水の件、音座・音像の帰住を認めるも、萌え促出を同じらい。 。夜、山田宮・権現等で猿楽あり。 貞成派遣の三位戻り、三木処分に付畠山より嘆申すとの事。
9月12日	貞成派遣の三位戻り、三木処分に付畠山より嘆申すとの事。
9月13日	三木処分請文の件、畠山納得せず。闕所名田も返還との事。
9月14日	貞成、将軍の三木帰住に付お尋ねあり、貞成帰住許可、請文提出要と返答。 答。
9月15日	貞成、三木善理以下の名田屋敷返還の奉書を発給する。将軍御修法始む。
9月17日	貞成、栂尾経僧の播州飾磨津別府代官職課役加増の請文を了承する。
9月19日	栗博奕あり。
9月20日	貞成持斎する。
9月21日	将軍義持、今日伊勢参宮とのこと。
9月22日	昨日予定の将軍参宮は雨天延期で今日下向とのこと。
9月24日	三条公量の青侍(伏見)延光名代官職所望の件で院宣案文を見せられる。
9月25日	月次連歌延引、但し五十韻だけ行う。
9月26日	昨日五十韻で終わった連歌、今日百韻終える。
9月27日	禧準蔵主七回忌を東福寺塔頭にて行う。将軍伊勢よりの帰路宇治坂迎え 用意。
9月29日	(聞)禁裏(称光天皇)御悩にて御修法行われるとのこと。
10月 1日	初冬之節。
10月 2日	智恩院隆秀僧正参り貞成対面する。その後蹴鞠あり。称光天皇の御悩は 御風気と医師が診断する。これは禁中にて化け物を御覧になって以来と の風評あり。
10月 3日	洪蔭蔵主参る。貞成虚名無為の祈願として始めた北野社立願の和歌を詠む。
10月 4日	貞成、飾磨津別府・武蔵堀池・大嶋保の三件、安堵の令旨を発給する。 *紙背255号
10月 5日	称光天皇御悩快癒祈願の七社奉幣(使)を派遣する。椎野、不断念仏料 所(室町院領)丹波田村庄課役を無沙汰につき、貞成、御書を出す。
10月 6日	豊原郷秋参り楽あり。
10月 7日	三福寺前住他界後は坊主幼少(大館末子十一歳)とのこと。
10月 8日	(聞)勝阿、中風脚気にて重体とのこと。
10月 9日	(新造)田向邸に鞠懸りの木を植える(蹴鞠場所の四隅?)。
10月11日	三条大納言公量、梅木所望に付一本遣わす。貞成松茸狩に行くも採れず。
10月12日	仙洞より御返事(勅報)到来。今後は直状を許可する旨仰せあり。
10月13日	善基、即成院の梅木を貞成に献上する。
10月14日	勝阿、今日他界したとのこと。遺跡は祐誉が相続。
10月16日	備中国園庄を守護細川頼重に宛行うに付、補任を要請する。
10月18日	水無瀬法覚依頼で書写の源氏は仙洞祗侯の上臈局の本を無許可で利用との事。
10月19日	源氏無断書写一件は重大過失として将軍からお尋ねあり仲介の惣得庵を呼ぶ。
10月20日	源氏書写一件は、照合の為目録を提出すべし、戯事ゆえ大事に至らずと。

年·月·日	記事の要旨
10月21日	室町殿へ書写源氏の目録を提出する。将軍より無為の御返事、貞成安堵す。
10月22日	貞成、源氏書写一件で仙洞へ書状を献ずる旨の書状を三条大納言へ遣わ す。
10月23日	貞成、書状にて仙洞へ源氏書写一件と信州五ケ庄の件を申入れる。
10月24日	(聞)室町幕府、一色左京大夫(義貫)を山城国守護に補任する。
10月25日	永圓寺長老参り貞成と対面。武蔵堀池の違乱停止の令旨の御礼に永圓寺 長老参る。月次連歌。*「看」巻二紙背 懐紙四
10月26日	菊亭仕女別当(公富母)病状悪く落髪せしむ。
10月27日	新任山城守護一色義貫より伏見庄地下人(御領沙汰人名主)に忠節を要求。備中園西庄・東庄の代官に対して細川方まず両庄地下の掌握を要請する。*「当所守護不入」。
10月29日	貞成、山城守護一色義貫に対して、伏見圧沙汰人名主等の軍役等を拒む。
11月 1日	幕府、山城守護代に守護一色義貫の代を若狭でも勤めた三方範忠を補任する。(聞) 菊亭中納言公富の母他界する。
11月 4日	聖廟法楽百首和歌を勧進する。
11月 5日	妙法院門跡、伏見宮の松を所望に付、進呈する。楽あり。
11月 6日	貞成風呂に入る。大通院第三廻の看経を今日から始める。
11月 8日	将軍義持、石山寺へ参詣し、観音懺法を勤修。
11月 9日	勧修寺経興播磨国衙検注では国大損亡との事、本年中に沙汰せよと守護 下知。
11月12日	貞成、一筆書写法華経(8/18~)を結願する。
11月13日	大通院三回忌の仏事あり。(聞)将軍義持、石清水八幡宮へ参詣。
11月14日	三位の私仏事が結願する。
11月15日	石清水放生会が将軍義持御参籠のもと行われる。
11月17日	大通院三回忌仏事の仏事料を勾当局・対御方より進呈さる。関白一条経嗣薨ず、貞成「有職漢才等抜群・公家之鏡」と、その死を悼む。
11月18日	大通院の仏事が続く。夜に妙一座頭参り仏前で両句を語る。
11月19日	大通院仏事今日で満散。仏事料少乏のところ仙洞より二千疋の助成あり。この助成で観音懺法の実施の評定を始める。椿一検校が参り仏前で両 三句語る。
11月20日	仏事、点心以下進められる。椿一検校、平家を語る。
11月21日	貞成、仙洞からの仏事料御助成を賀し酒宴。椿一の平家を聞く。夜、土 御門高倉辺焼亡し女官阿五の宿所が炎上する。
11月22日	仙洞からの御助成を申次した永基に礼物を遣わすも受け取らず。薪順事あり。
11月23日	楽あり。(聞)土倉寶泉の妻が産後が悪く死去。
11月24日	(聞) 富樫満成、将軍義持北野社参籠中に御突鼻、よって(高野山へ)没落。東南院宮(栂尾義仁親王宮)が入滅。
11月25日	連歌あり。 (聞) 富樫満成の没落の要因種々あり、高野山へ没落すと。 満成の加賀守護職惣領預分は闕所、宿所は細川阿波子息に下付。*「看 」巻二紙背 懐紙五
11月26日	貞成、母を失った菊亭中納言公富を気遣い助成する。
11月27日	仏事で滯在していた貞成連枝用健(周乾)・洪蔭蔵主が嵯峨に帰る。
11月30日	(聞)十種香の勝負あり。
12月 1日	朔日。
12月 2日	故勝阿の五旬仏事が昨日あり形見を相続者祐誉が持参する。郷秋参り楽 。任大臣節会あり、今出川公行が左大臣を辞し九条満教が後任となり関 白を兼ねる。
12月 4日	貞成大光明寺風呂に入る。夜北土蔵へ強盗入る。
12月 6日	仙洞から御返事御書あり。盗人糾明の為地下一庄御香宮に集まり告文を 書く。

年 月 日	記事の要旨
12月 7日	貞成、故勝阿御恩知行の若狭松永の安堵令旨を後継者祐誉に下す。
12月 9日	伏見宮で薪順事あり、その合間に和歌一折あり。
12月10日	貞成生母故西御方の年忌仏事を塔頭で行う。新内侍、皇女を出産。
12月11日	椎野(貞成連枝)寺(光明庵)に帰る。
12月12日	貞成、三位を遣わし播州市別府の件を広橋(兼宣)に相談する。
12月13日	使三位、広橋より戻る。
12月14日	伏見宮で煤払いを行う(陰陽師勘進)。
12月15日	安楽光院長老歳末の礼に参るも貞成対面せず。興福寺維摩会始まる。
12月16日	貞成、相国寺転経供養に参る。大工源内に塗籠内部の室礼をさせる。
12月17日	番匠(大工源内)塗籠の室礼を終える。薪順事あり。
12月18日	故治仁王の三女(二歳)御髪置の儀あり。長女七歳は仁和寺鳴瀧殿へ入
	室の契約、廿六日入室予定。(聞)義持参内し新内侍懐妊事件での勾當局
10 日 10 日	の処分を免除。相国寺鎮守社炎上、火元は神子家。 四弦の百日稽古、和歌等無事に結願する。
12月19日	
12月20日	賀茂在弘が新暦・八卦等を献上する。(聞)新内侍は処分なし。
12月21日	豊原郷秋参り楽あり。夜、薪順事あり。
12月22日	薪順事あり。連歌百韻行う。*「看」巻二紙背 懐紙六
12月23日	内侍所にて御神楽あり。玉櫛禅門他界する。
12月24日	播州飾磨津別府の年貢を山坊経僧律師が代官として納める。仙洞へ歳暮
	1礼。
12月25日	貞成、風呂に入る。薪順事あり。
12月26日	葆光院の姫宮(七歳長女)、十地院殿(仁和寺鳴瀧、萩原殿宮)へ入室
	する。貞成の姫宮(三歳)、賀茂在弘勘進により酉時に御魚味・深剪の
10 0 0 0 0	祝儀を行う。
12月27日	三方入道使節を以、三木善理訴訟四ケ条目安を見せらる。
12月28日	土御門泰継、新暦・八卦等を献上する。称光天皇、貢馬御覧あり。
12月晦日	貞成、早朝より御香宮へ参詣。陰陽師土御門有清(泰家息)新暦八卦等 持参。

(尾崎安啓)